

馬場文英編輯
三府名所獨案内圖會
京都之部
下

特59
14

022489-003-8

特59-14

三府名所獨案内圖會

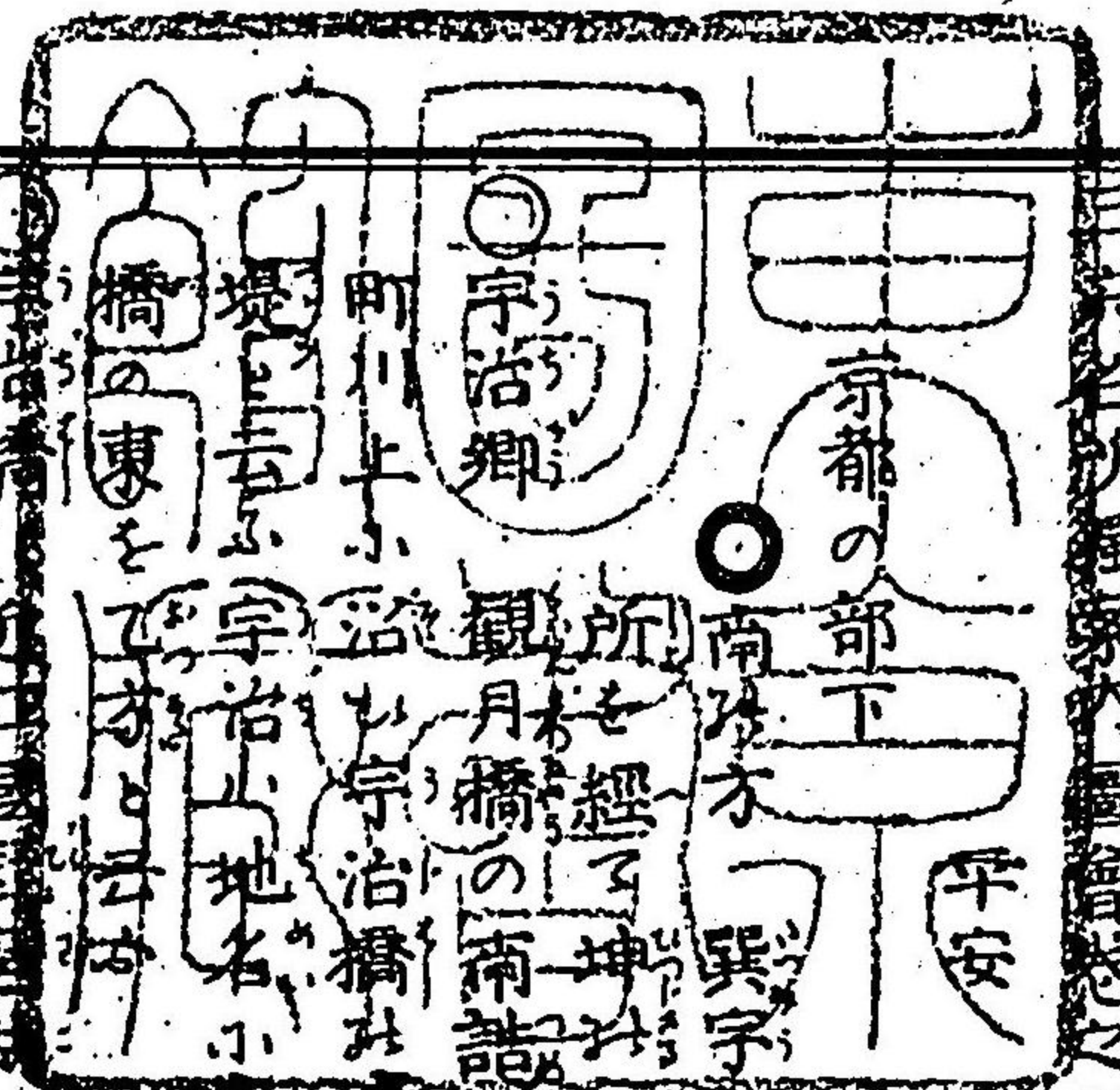
馬場 文英/編

M16

ADB-0157



馬場文英 編輯



○宇治橋 近江國琵琶湖の水此橋下小流れ至
 是れ宇治川と云ふ此橋三町間水名水
 と稱ま茶小く合すと云通圓の茶屋ハ東詰
 小川と孝徳天皇大化二年元興寺の道昭和尚
 架りし處也此川上小治を二十町計小鹿飛米
 磨鈍子の口と云へる名所なり夫より近江
 國石山へ至る徑路なり難所なり宇治より三
 里計小して達ま又橋より二町計り下小橋小
 嶋崎といふ名所旧跡なり佐々木高綱提原
 景季と先陣の争ひし所なり平家物語盛衰
 記等小く又古歌多し其下小槇島なり



○平等院 宇治橋より川上三丁計あり初め
 河原左大臣融の別荘なり其後陽成院
 此地小行宮を建玉む宇治院と号し又長徳四
 年御堂関白此院を得て山莊と稱し其後子息
 宇治関白頼通永養七年寺と名し今其寺号小
 改め法華三昧を修す仙殿ハ鳳凰を象り左右
 の高樓回廊を兩翼と稱し後背ハ廊ハ尾と稱し
 上ハ雌雄ハ鳳凰なり風小隨ふて舞ハ鳳凰堂
 と稱す本尊阿彌陀仏六尺ハ坐像定朝の作ニ
 堂内の長押ハ六五菩薩の像あり鈎殿最勝堂

と稱し十一面觀音と安き當時の佛殿ハ建
 已来回祿火災ハ京都名所最一の古雅なり
 美賞する処也治養四年源三位頼政入道
 高倉宮を勸め謀及企て平家ハ為小敗蹟
 當寺小入て自殺を其古跡を扇ハ芝と云故小
 頼政の鎧旗竿等現存付室と云
 ○橋姫社 橋ハ西詰小なり祀す所の神諸説あり
 是非を別し俗人結縁離縁を祈願する
 小具驗あり云ふ
 ○縣社 平等院ハ南小なり祭神諸説あり畧
 之例祭六月五日夜京都より群祭あり
 ○興聖寺 宇治橋の東詰より二町計川上小なり
 禪宗曹洞派開山道玄和尚佛殿ハ釈迦仏を
 安す當寺ハ旧深草里小なり一端中絶せしを
 正保年中城列淀城主永井直政此小再建中興
 関山を万安和尚と稱し門前坂路ハ岩を鑿し
 リ琴坂と云ふ山吹ハ名所なり
 ○惠心院 興聖寺北小なり朝日山と云ふ真
 言宗開基ハ惠心僧都本尊六日如来ハ弘法大
 師作又惠心僧都の像と安す

○橋寺 橋は東にあり常光寺放生院と号す本尊地藏菩薩開基道昭和尚

○離宮八幡 惠心院の北にあり祭神應神天皇仁徳天皇免道尊平等院は鎮守宇治郷の産神

○喜撰嶽 宇治より一里計り東南にあり撰川村に山上に岩岫あり喜撰洞と云ふ喜撰法師の住する旧跡なり

○茶園 此辺茶園多し茶は海内無双の別品にして製茶を諸國海外に至る迄販く佳美を賞す山城國第一の名産と云ふ又五月の夕小川辺に螢群と都人納涼と托し見物小来者多し又橋の西詰南川辺に割煮たり鯉鮒鱒の住味他小勝る

○三室戸寺 宇治の東北明星山と云ふ光仁天皇の御願にて開基ハ智澄大師本尊千手觀音山浮檀金立像八寸五分宇治山は東岩満より出現せりと云西國順礼第十番に札所なり

○黄檗山万福寺 三室戸の西五ヶ庄村の南にあて明暦元年開山大明福列の僧隱元禪師也

寛文元年小至り伽藍成就後水尾天皇より大光普照國師と謚を賜ふ堂殿悉く支那の様式を摸す

○鷲峰山金胎寺 宇治田原郷に口より一里半大道寺村より三十六町あり一町毎に標石あり相楽郡和束郷原山村に嶺にあて京より八里南東天武天皇白鳳四年役行者天竺靈鷲山を此山に移し八ツの嶺ハ八葉蓮華を表し釈迦嶽阿弥陀嶽弥勒嶽宝生岳阿闍梨虛空岳不慮岳妓樂岳と号し巖頭小坐して修法す其



京都府所屬郡内 卷之十

後養老六年越後白山の行者泰澄法師七堂伽藍以造営其後荒廢して今僅く存す

○百丈山大智寺 相樂郡和東郷湯舟の奥小杉村にあり鷲峰山の東なり郷に口より山田に

越て湯舟に至るは四里余なり京都より十里計禪宗にして江列山上永源寺に属す関山大觀

禪師本尊釈迦牟尼安阿弥の作本願山名伯耆守に建立後東福門院に殿を再建せり

よき山上十町斗に坐禪石あり高さ三十間横幅二十間頂上は平方十間計り

○推尾山光明寺 長池の南觀音堂村にあり本尊十一面觀音の行基に作也

○玉水里 長池は南一里余にあり山吹は名前の旧跡は此里に南にあり

○井堤里 玉水に駅比東也井堤左大臣橋諸兄の旧跡は此里に南にあり

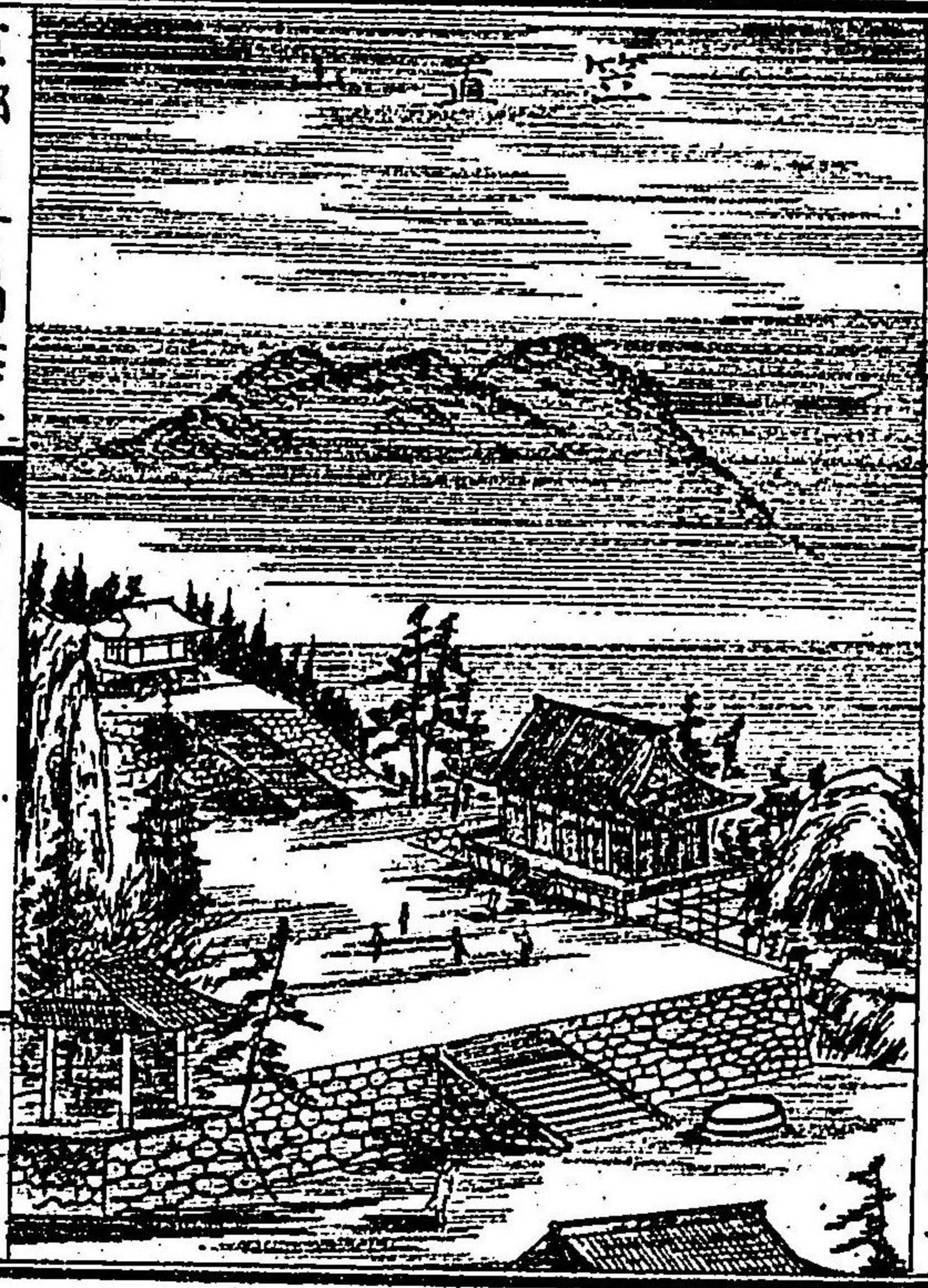
○井堤五川 水上に井堤里の東二里計和東に流れて井堤を過り玉水里に西へ流れて水津川に入る日本六井五川の一なり共小山吹は名所古哥多し

○普門山蟹満寺 綺田村にあり本尊釈迦仏を安んず真言宗寺記に曰く昔至善に里人蟹を助け又蛇を養ふを見て蛇が其養を放ち助る

我娘の蟹をせんや蛇即ち養を放ち其里に娘を彼蛇慕ふ時小前小助ありし蟹來りて彼蛇を狭斬りぬ其地小寺を営むと云

○北吉野神童寺 綺田に東山中にあり此所伊賀街道神童寺越と云真言宗本尊藏王権現立像八尺開山堂に役行者を安置

○妙勝寺 水津川に西薪村にあり禪宗開基大



妙勝寺 水津川に西薪村にあり禪宗開基大

應國師正應年中艸創又一休和尚再興之仙殿
本尊釈迦仏を安て開山堂ハ大應國師像を安
ナ才丈ハ一休和尚を安す

○水津川 水源ハ伊賀國山田郡阿知より出伊
賀半國ハ水此川小流を末ハ淀川小落る霖雨
小降りキと東風つとを吹時ハ満水して堤
は溢る

○瓶原 狛里の東一里小河を昔より其名所小
して古哥多し

○柞の杜 瓶原郷中西村小河を名所古哥多し
鶯の濃衣ハ瀧真田川の名所なり

○國分寺 同郷河原村小河を本尊阿弥陀仏聖
武帝の御願開基ハ行基大士

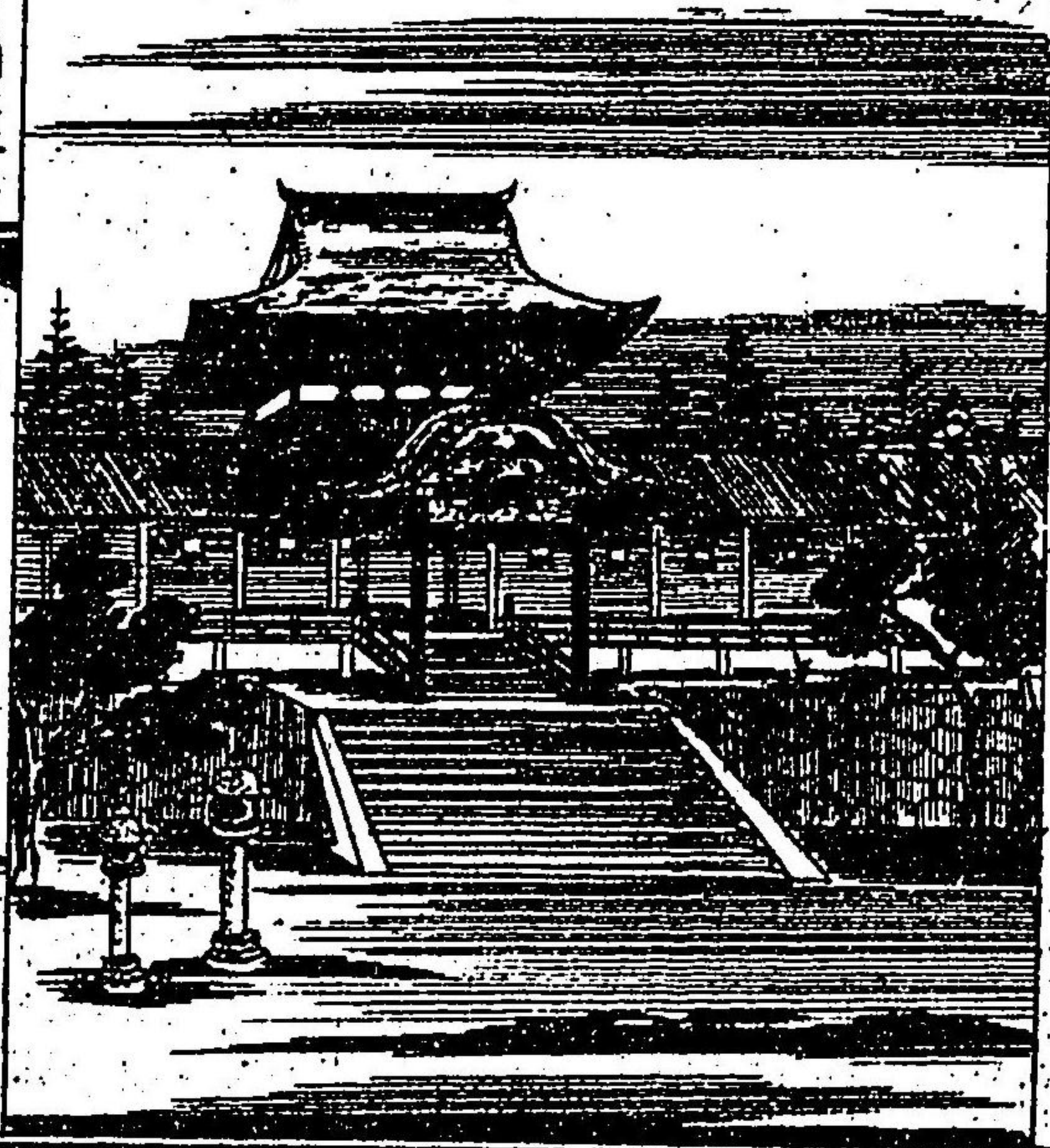
○海修山寺 瓶原郷佛生寺村の山上小河を真
言本尊十一面觀音脇土地蔵毘沙門を安て聖
武天皇勅願所三重塔文珠堂なり

○笠置寺 相樂郡笠置小河より京都より十二里
鹿路山と稱も天武天皇ハ創建本堂本尊弥勒
仏ハ自然石小刺も元弘ハ乱小後醍醐帝此小
山籠一玉ハ東兵襲來ハ皇居を火く此時殿堂

多く滅して今僅々小堂のみ遺れり藥師石
高ハ十間横五間厩空藏石高ハ八間石面小仏
像見カ文珠石高ハ五間横四間千手屈胎内潜
り本丸跡二の丸跡寺の名所數々なり

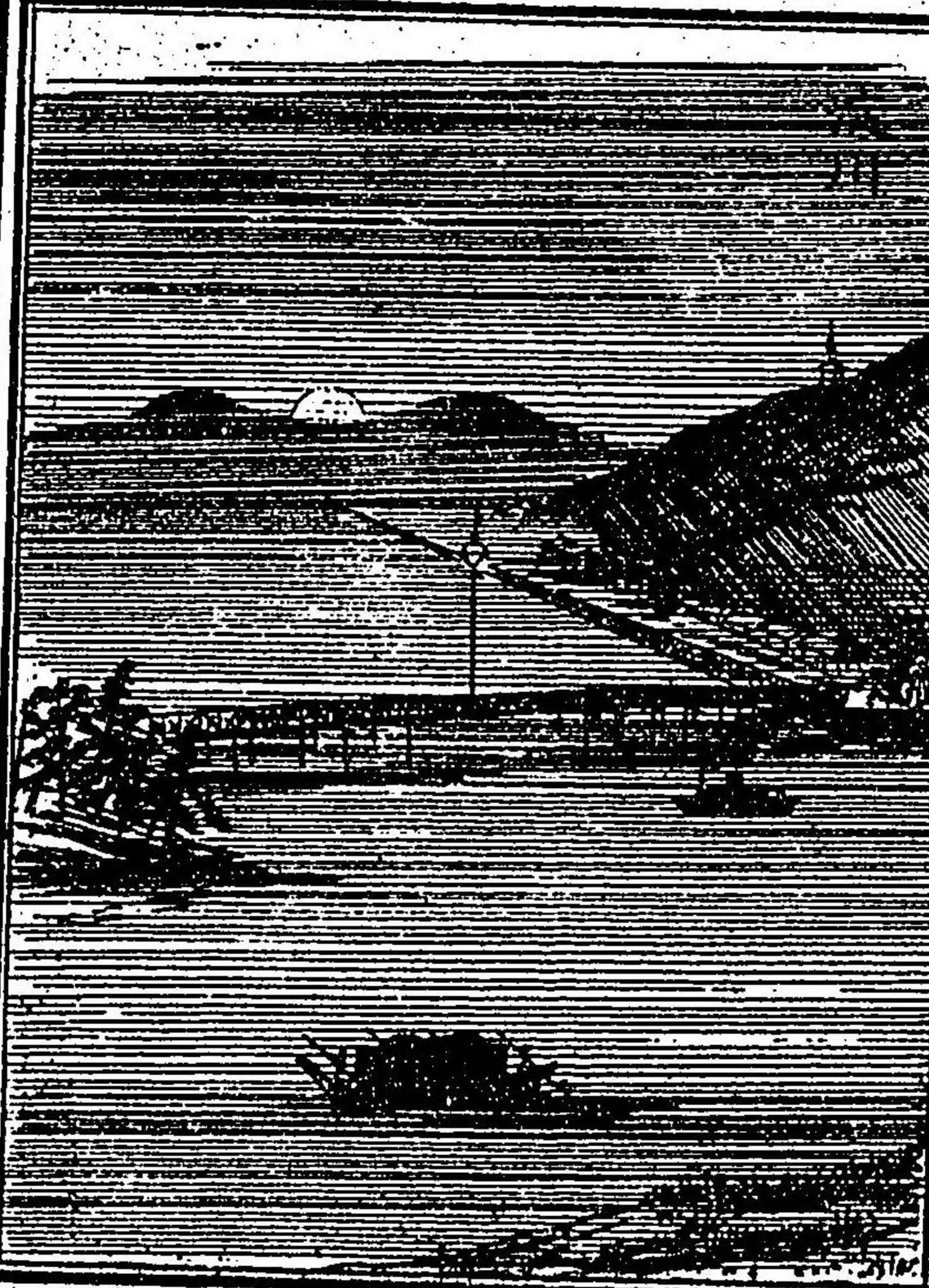
○巨椋湖 八幡ハ東北淀の小橋北詰より東北
五十町許り伏見の町小至り同所觀月橋の南
詰小河より此地ハ宇治川より入來る水より南
北五十町許りて周廻九五里と云府下第一
の巨湖なり綴喜郡ハ属ハ水禽河魚等ハ獵す
夏月蓮花を賞するの名所なり

男山八幡宮



○野山八幡宮 淀川に東綴喜郡八幡莊嶋ヶ峯
 といふ京都より五里余南西に當る又石清水
 と稱し祭神應神天皇五依姫神功皇后の三坐
 たり貞觀二年創建和列大安寺行教和尚開基
 官幣大社官祭八月十五日境地廣大にして概
 社未社多く本殿の傍に楠正成奉納の楠大木
 今も存す

○正法寺 八幡の南志水にあり浄土浴東百方
 遺る属し本尊阿彌陀惠心は作初め天台宗四
 誓上人開基中興聖譽上人浄土小改む



○洞ヶ峠 八幡に南半里小あり

○淀川 幾内第一に大河小して六國の水此小

會す山城近江伊賀河水當り静流し大坂市街
 を通過し川口小多海入川幅廣き所あり

○淀大橋 綴喜郡淀町に南にあり木津川小架
 二百三十間余小至り昼夜通船絶へ

○長さ百四十間小橋旧城の北にあり宇治川
 小架る長さ七十間

○小橋を渡り宇治川の堤小治て東へ五十町
 行きて伏見京橋蓬萊橋小至る又小橋は涉

○法傳寺 下鳥羽の南にあり始り真言宗藥師
 を安んじ行基の作也智恩院田智上人開基して

○浄土小改む本尊彌陀仏の惠心の作善導大師
 法然上人を安んじ

○戀塚寺 下鳥羽小あり銘小曰渡辺左工門尉
 妻袈裟秀玉善尼墓元養元年又覺上人開基貞

○婦袈裟夫小代り遠藤武者小殺さるる旧地
 實相寺 上鳥羽小あり法華宗開基大覺上人

○下鳥羽小あり法華宗開基大覺上人

本堂脇檀小松永貞徳の像あり貞徳終焉の地
吉祥院天満宮 唐橋村に南小あり

○水薬師寺 西七條の南小あり本尊薬師如来
弁財天社下下清泉涌出る平清盛熱病の時
此水少々冷せり也

此辺は京師南西の傍小して市街小近

○北の方 良の方下鴨より起り一乘
寺八瀬大原を経て北山に至る名
所旧跡を記し

○河合社 寺町今出川より北小至り鴨川を距
へ下鴨の入口小あり下鴨の橋社なり此地東
の高野川西鴨川兩川落合て南小流るるを
以て河合と称す

○下鴨社 河合社より北二町計官幣大社多々
須玉依毗賣大山咋神を祭る或ハ角身命を
凡云山城國一の宮小して桓武天皇長岡の京
より遷都以前の鎮座なり境内小松神社あり
此地小諸木を植れば悉く松小化は奇あり又
社の森と云ふハ當社前ハ指し本社東の傍小



清泉涌出る冷水小して夏月池に辺り水茶
屋を拘り貴賤納涼す也と紀川の源なる官祭
四月十五日

是より上加茂へ至るハ本社を西へ出て鞍
馬街道を北へ行か加茂川に東岸小徑り
を川に沿て上ほ二十町計上上加茂に達
○本涌寺 下鴨の北十八丁計松ヶ崎村にあり
一村皆日蓮宗なる開基日生天正年中より同
宗の学室となす

○妙泉寺 本涌寺と相並ぬ開基日像毎秋民俗

題目を唱ぬる小節付て踊る事何せ世小是
を題目踊るといふ又寺は後山一八月十六日
の夜妙法二字は形一火を照す東山大文字送
り火一同一近時妙圓寺一犬黒元を祀り甲子
日小ハ京師より参詣する者多し

此所より山小添ひ西へ至り御菩薩池へ出
る徑路あり又此山の西小北へ行く道あり
北岩倉の本道なり又東へ出ると高野川が
距て山端へ出る

○山端 高野川 高野川の東より割烹店平
八山五杯りりるを麥飯を販り又鰻鯉鮎鱒
鱧海川は魚類を料理を殊々美味なり庭前小
清川を注ぎ山岫等へ漫遊雅逸の地なり

○詩仙堂 山端より十町計東南一茶寺村あり
て鴻儒石川丈山の別荘なり堂は四壁小漢晉
唐宋は詩人三十六像を狩野尚信画り其人贊
を丈山書す又遺物の現琴竹根の如意書籍多
かり

○修覺寺 御茶屋 詩仙堂より八町計北あり
後水尾天皇行宮は地なり奇景美麗筆墨小尽
かり

一泉石山景自然の雅興よりて四季の眺め賞
譽小絶へす諸人小從覽を許さる

○赤山社 修覺寺村の北あり此神ハ天台宗
の護法神なり赤山とハ震旦の山名なりと
此社前を東へ登る道あり比叡山に達し雲
母越なり又此南修學寺と一茶寺とは間東
へ登る所小雲母の不動と云有此所より上
る本道と云



修學寺御茶屋

高野川... 卷之...

○御蔭社 高野村の西に赤山より北東廿丁計

下鴨皇太神宮降臨の地なり故に御生山といふ例祭四月中に午に日なり御蔭祭と云ふ

○大原里 高野村に北にあり此辺賤女馬を追ひ黒木真柴など頭小いも此都に大小路を鬻ぐまほ他の國小類ひるに風俗いや珍らし之は大原女と云ふ此里辺田圃少く山稼を専一せし

○寂光院 大原御草生村の西に弘法大師開基本尊地藏尊ハ聖徳太子作文治の頃高倉天皇に后建礼門院閑居の地あり故に門院は御影阿波内侍の像あり真言宗に尼寺なり又同村に臘清水あり謡曲に聞へて世の人共知る處なり此寺は什宝に須内裏に記あり

○證提阿弥陀 大原にあり魚山勝林寺と号す坐像長七尺佛工は祖康成の作開基寂源法師文治二年法然上人 大原問答の時證提小立ちりし故名と云ふ

○來迎院 大原來迎院村にあり魚山と稱す本尊藥師佛開基良忍上人

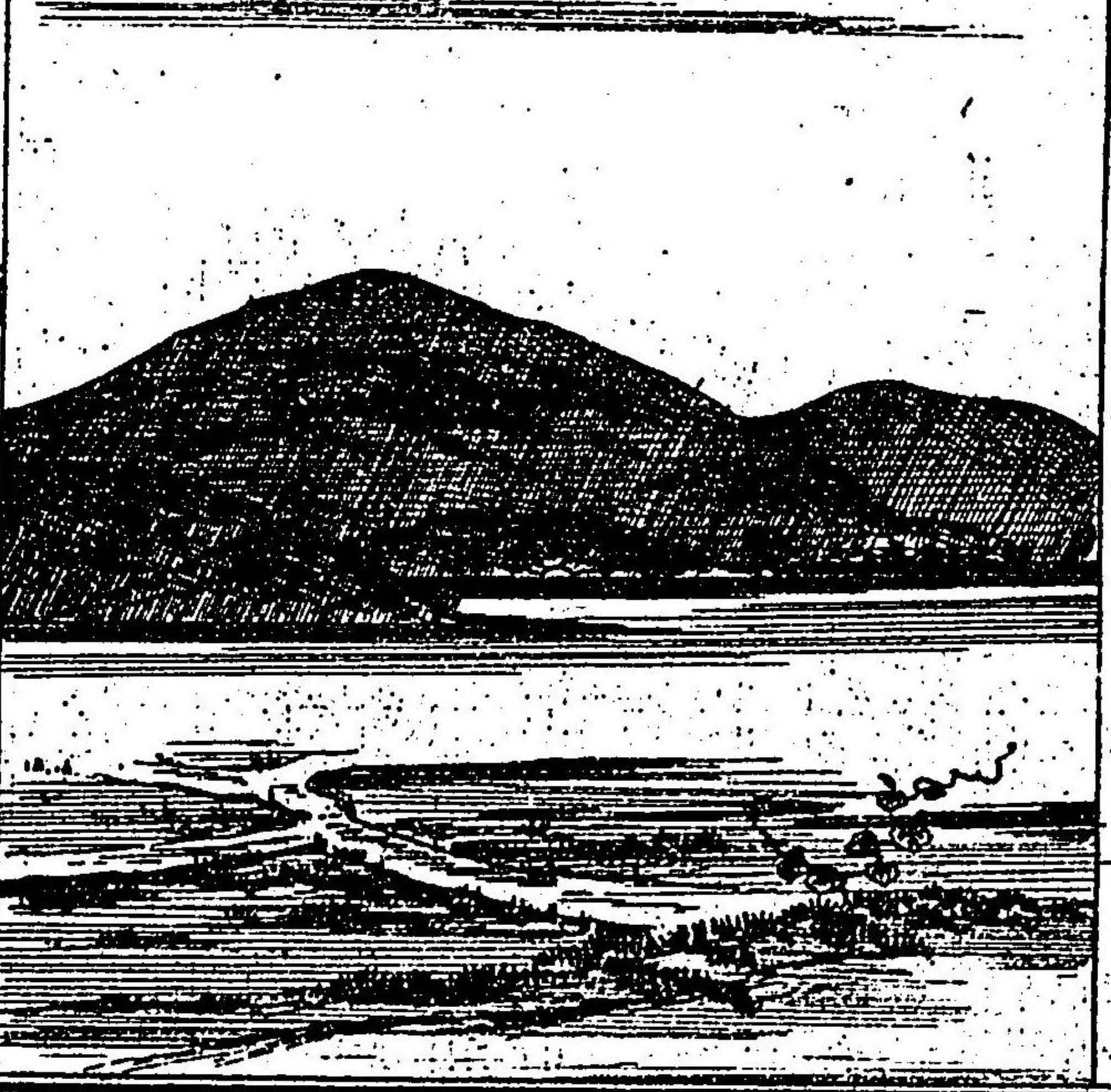
○音無滝 來迎院の東四町にあり飛泉二丈余翠岩小傍に南に落る名所古歌多し

○古知谷 勝林寺より十八町北にあり光明山阿弥陀寺と号し浄土宗開基彈誓上人本尊阿弥陀ハ惠心に作

○芥生里 大原郷の西にあり古より和哥小多し詠

○比叡山 京都より良方四里に京都は方より登道四筋あり南より白川より東山中村

比叡山



を経て無動寺小至ほ又一衆寺村より登り
 東塔小至ほ又修学寺より登る要母坂四明
 嶽小達す又八瀬より上ほ走出しと云西塔
 横川小至ほ當山ハ山城近江小跨る大山小
 して登る道何れも險阻あり食物草鞋等ハ
 賣家ハ
 比叡山延暦寺ハ桓武天皇延暦七年傳教大師
 の開基小して日本五山ハ一王城守護の是嶽
 ハ昔ハ三千坊ありと云一山の衆徒共拔
 扈するを織田信長之を悪くハ永禄年間火屠
 せしと甚く衰微ハ徳川家小至り今ハ如く
 再興せりしより根本中堂本尊釈迦如來傳教
 大師作なり○戒壇堂嵯峨天皇建立弘仁十四
 年慈覚大師入唐して五臺堂の土を持帰り壇
 下小埋む所なり○文珠堂慈覚大師建立○大
 講堂大日佛梵天帝釈文珠佛等を安置○前齋
 院慈覚大師の窟なり○千手堂千手観音を安
 ず浄土院傳教大師の窟なり○山王院智證大
 師ハ本房也○千手井俗ハ千慶水と云
 以上東塔と云此東塔ハ東谷十一坊西谷十

北嶽大山講堂



一坊南谷小十二坊北谷小十二坊あり合し
 七四十六坊

法華堂本尊普賢菩薩○常行堂本尊阿彌陀仏
 ○釈迦堂本尊釈迦尊文珠四天王兼和元年建
 立○相輪塔俗ハ玉城鬼門柱と云高ハ四丈五
 尺九層あり傳教大師の銘あり弘仁十一年と
 あり○椿堂如意輪観音を安置○宝幢院惠亮
 和尚の窟塔○本黒谷青竜寺本尊文珠十一面
 観音及び淨名居士の影を安置法然上人此所
 小住居ありし也

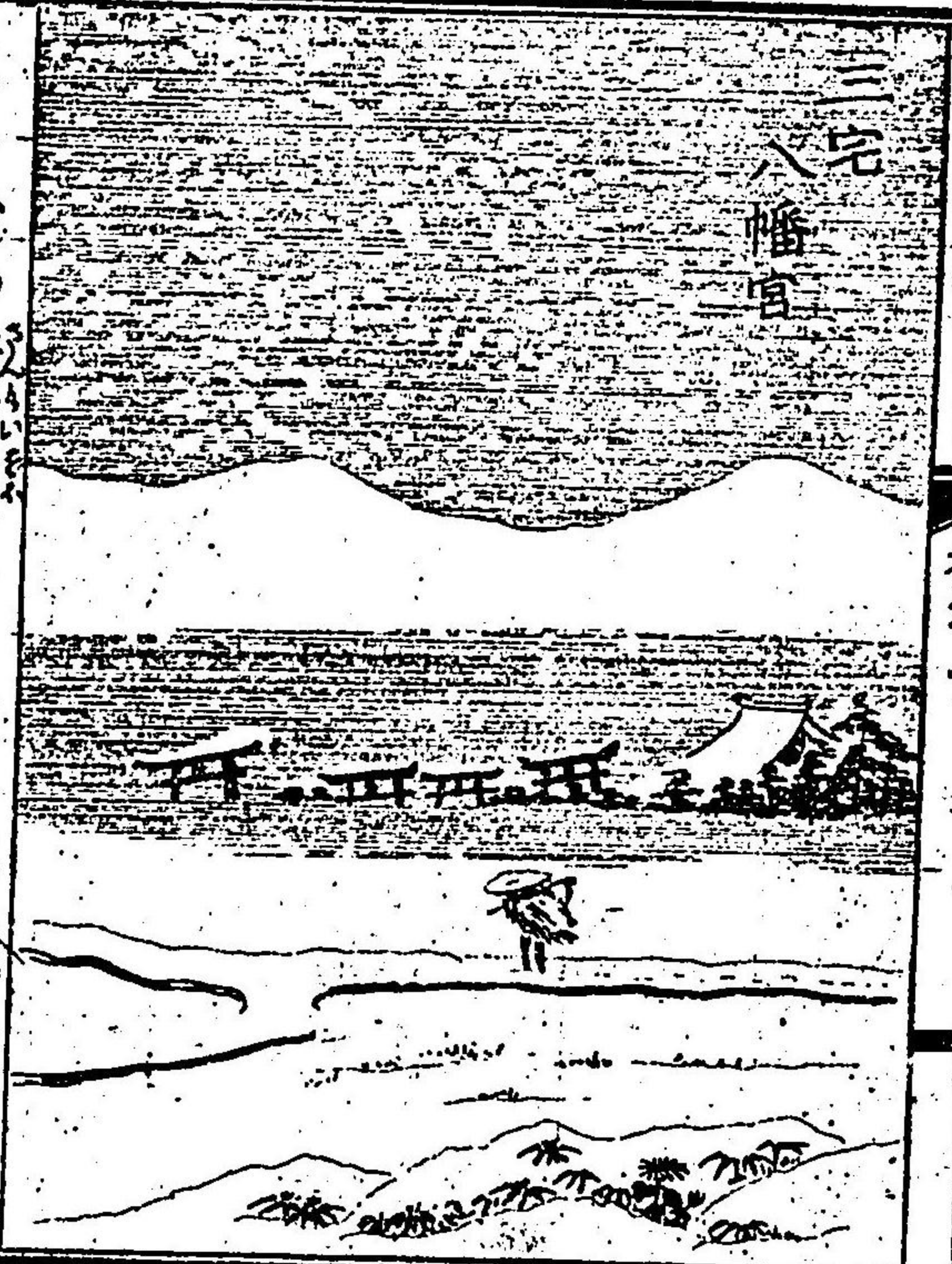
以上西塔と云東谷小九坊南谷小十坊北谷
 十二坊浄土院を下りて谷川を界とし
 中堂本尊聖観音慈覚大師作脇士毘沙門不動
 ○慈恵大師庵元三大師と云○四季講堂○大
 師堂村上天皇御願慈恵大師開基弥勒如意輪
 不動山王を安し○観音堂華表岡又不二門と
 云○飯室横川に別也宝満寺と云不動堂あり
 ○安樂院恵心僧都の住所也本尊阿弥陀仏恵
 恵心の作又恵心の像あり
 以上横川と楞嚴院と号十四坊在り

比叡山横川



大乘院慈鎮和尚の住み居也親鸞上人と此
 院小住て天台は學文有る山内第一は絶
 景なり○辨財天例年巳の日参詣多し○南光
 坊慈眼大師と云○雲母坂不動本尊不動明王
 傳教大師作雲母寺の額ハ石川丈山筆なり
 以上無動寺といふ十三坊有
 四明ヶ嶽 叡山第一は峰也雲母坂より登りて
 山上小石佛が安す是山城近江の界なり絶頂
 より西海淡路島四國海路幽小見也東は眺
 めハ近江八景一目小観下し西を臨めハ京師
 を見下す絶景なり

大講堂の前を東へ下りて四辻なり是を満
 土混論辻とし南へ下きハ無動寺小至り
 山中越又ハ一乘寺村へ出る道なり西へ下
 れハ雲母坂へ出る北へ下きハ八瀬走出し
 小出る東小下きハ坂本山王八王子へ出唐
 崎三井寺より大津小至る順路なり
 ○三宅八幡 山端より直路村は北端に高野川
 小架る橋なり是を渡りて北小至る山端より
 八町許東側山際小森あり小兒は病小驗なり



三宅八幡宮

とて常小茶詣り

○北岩倉大雲寺 京より松ヶ崎を経て北の方
 に至る九二里半天台宗本尊聖観音立像行基
 作大雲寺に願ひ参議佐理に書関基に智辨僧
 正なり願狂人の連來りて庵り堂に留り平愈
 を祈る

○鞍馬寺毘沙門天 岩倉より北九一里半計り
 松尾山と称し天台宗本尊毘沙門天延暦十五
 年大中大夫藤原伊勢入當山小於て本尊に感得
 一堂舎を建立し源牛若丸當坊中東光坊小住

せりぬるばる盛衰記小見へふり山門ハ往還
 の傍小あり是より本堂へ八丁あり此山門前
 を北へ往く若狭街道へ出る又大悲山への本
 道なり京都より鞍馬山へ三里余

○鞍明神社 本堂の下小あり大門より三丁山
 上祭神大己貴命天慶年中の勸請小して鞍馬
 村の産土神とい例祭十月九日あり八日は夜
 大松明小火を照し里民神輿を迎ふ之を鞍馬
 の火祭といふ六月廿日竹切の祭あり

○僧正谷 鞍馬寺より貴船へ下り中間小あり
 僧正坊の小社あり源牛若丸僧正坊小劍法を
 授り煉磨とて旧跡あり其辺り小ある岩石小
 刀劍の痕小似ふほなり

○貴布祢社 僧正谷の西下三町計小有水神岡
 象女神の二神を祭る奥の社へ八町あり是れ
 南へ出せば又二ノ瀬村小至る

○大悲山峰定寺 鞍馬より五里北寺谷村小あり
 京より九里天台宗平清盛の創建観音堂ハ
 巖上小あり関基より回祿の災なり故小山門
 堂造古雅なり三木杉の大樹乳岩等の名所有

鞍馬寺



○市原小町寺 鞍馬より一里余市原村の南にあり鞍馬貴船二の瀬野中市原五ヶ村の埋葬地を菩提洛寺と号し往古清原深養父幽棲の旧跡なり

此所より六町計南小出きハ二軒茶屋と云あて右ハ上加茂紫竹へ至る左小御菩薩池下鴨へ至る道なり

○岩屋山金峯寺 愛宕郡出谷村の北小町より四里十二丁真言宗本尊不動明王也空海の作額ハ後奈良天皇の宸翰

○西加茂神光院 上加茂の北加茂川に西ふりて真言開基弘法大師より自作の像を安置本尊愛染明王弘法は作也

○靈源寺 同所にあり後水尾法皇御親開基山頂國師本尊釈迦仏殿檀小後水尾帝聖像又開山の像は安し辨財天社東福門院作神像撞鐘ハ大仏殿銅像は金とて造る

○上加茂社 愛宕郡上加茂村小あり京三條大橋より北の方五十町計官幣大社山城國一の官幣也祭神賀茂皇大神又別雷皇大神とも稱

上加茂



天武天皇白鳳五年造官神前小御手洗川と云清流なり後山神山と号し社地廣く風景最よし橋本社岩木社片岡社奈良社若宮新宮其外未社諸殿多し例年五月五日社前馬場小競馬式あり世に聞へ高志又六月三十日七月一日小神能あり

○御菩薩池 上加茂の東八丁許に御菩薩池村の民家東にあり此所小古より有名の地藏尊の小堂あり本尊地藏菩薩ハ小野篁の作なり宇治郡六地藏村大善寺小同作の六地藏なり平清盛西光法師に命じ都は入口毎小六角の堂を建立して一鉢宛を分ち置は一ツなり明治維新は後當村ハ上賀茂の社領なり小善寺ハ移し今ハ此地小善寺ハ是より北小至山鞍馬一姓を東本街道畑枝村小至り又南へ直に行き下鴨村小至り十八町

○西桂方

乾の才鷹ヶ峯より起り西山は名所旧跡を經り坤の方山崎小畢る
○常照寺 鷹ヶ峯今ハ紫竹大門村と云小あり
○寂光山 号ハ法華宗法檀林開基日親上人
○源光菴 同所小あり禪宗開基山和尚
○光悦寺 同所小あり法華宗初大虛菴と稱す
○羅山 此庵の記を書り羅山文集に見ゆ
○石門 鷹峯の北小あり両岩あり高さ數丈門を構ふる小似あり往古靈嚴寺大夏の門を云



大徳寺之圖

○菩提瀧 鷹ヶ峯より一里計西より高き四丈八尺巾一間

○今宮社 愛宕郡東紫竹大門村小町に明治十四年府社となり祭神素戔嗚命御稻田姫を祀り長保二年五月勸請堀川以西二條以北の産神のしを其界域最も廣し私祭ハ五月十五日あり四大祭其一ツ又四月十日を安來祭と云上加茂上野の里民烏帽子素袍を着し太刀をかき鉦鼓少々囃きに赤毛を被りし小兒之りれ舞ふ古雅な祭式あり

○大徳寺 今宮北南に隣り龍宝山と号し開基大燈國師禪宗正中元年に創建伽藍ハ赤松園心山門ハ連哥師宗長閣ハ千利休寄附ありなり雲門庵ハ大燈國師の像と安き真珠菴ハ一休和尚住居地あり其遺物を存せし聚光院ハ利休の墓碑あり總見院ハ織田信長の位碑所天瑞寺ハ豊臣秀吉母公の為小建る所あり雲林院 大徳寺の南に端東側あり淳和帝の離宮なり仁明天皇の皇子常康親王に傳へ天曆帝の時僧正遍照を別當小補せられ堂塔

嚴重小建りせしり今ハ僅小微堂遠れり

○建勲神社 大宮通北極の西舟田山の東麓小町官幣別格社祭織田信長の靈小して維新の後織田氏王家に勲功はるが以て此地小社を建営せし私祭七月二日

○舟田山 建勲神社の山を云ふ山は形も舟に似るを以て云ふと云ふ應仁年中此小岩を構へ細川山名屢爭戦ありし應仁記後水

○蓮臺寺 千本通北今宮の南小あり真言宗

金閣寺



上品蓮臺寺と号し開基聖徳太子本尊地藏
弘法大師の作俗小十二坊と云

○金閣寺 蓮臺寺の西紙屋川に距大北山村小
ひと禪宗鹿苑寺と云應永四年の建嘗元は足
利義満の山莊にして後寺と為す夢想國師を
開基とし林泉の景色世に名有り三層に金閣
第一重は法水院と号し弥陀の三尊及び夢想
國師足利義満寺の像を安置し二重は潮音洞
と云ふ自然木の觀音四天王の像を安置し三重
を究竟頂と名つた天井は三間四方の一枚板

平野社



を以て造り閣は四面に金箔を貼り後小松天
皇の勅額を掲ぐ益々金額寺の稱此小起りな
り庭前の西小衣笠山に池の辺り小南天に
床柱竜門滝あり洛西に一勝地なり通券を求
めて諸人縦覽せしむ

○平野神社 金閣寺の南四町小に此社へ京
都より来る小北野天満官の境内北の門を
出西小向ひ紙屋川に架る橋を渉り此小至
るが本道より北野より二丁余官幣大社祭所
今水神久度神古開神姫神なり官祭四月二日
社地小櫻樹多し花の比は平野夜櫻と稱し觀
客夜宴は催す事盛んし他小其景勢あり
を開らば

○等持院 平野の西六町計禪宗開基は夢窓國
師足利尊氏建立額ハ足利義満の筆なり當時
小足利氏累世の水像を安ま文久三年二月勤
王の浪士足利氏の不臣を憤り尊氏義詮義満
三將軍木像の首を伐り三條河原小鼻首ま
事世小人の知る処なり

○竜安寺 等持院の西六町計禪宗大雲山と云



東都御所
 永享二年

○細川勝元建立開基義天和尚本尊釈迦佛大元達磨惠光禪師細川勝元の像を安んじ堂内元井の画ハ北殿司の筆なり元此地ハ勝元の別館小て方丈ハ勝元書院を以て管じ境内ハ名池あり玄冬ハ鶯鶯集る明治九年より山内西の山を關し火葬場ヲ設く

○真如寺 松原村小あり開基ハ夢窓國師本尊釈迦佛光國師達磨佛國夢窓の三影を安す康永年中高武藏守師直修造也
 ○椿寺 紙屋川の西妙心寺道小あり地藏院ト

と稱し此寺小椿の大樹あり以て名とい元祿年間赤穂義士小依頼を得る天野屋理兵衛此寺小住居して歿を庭前小墓り松永土齊ト云

○妙心寺 竜安寺の南四丁計高野郡池上村細川國師本尊釈迦佛花園天皇創建山内五鳳院ハ花園帝の宸居跡あり萬里小路藤房遁世して當寺小入り關山の法脈を嗣ぎ授翁と号して當時第二世其人なりト云最加藍魏々トて



東都御所
 永享二年
 十七

美観なり境内小老松あり今小繁茂す又四派の松あり此寺小十景を附す

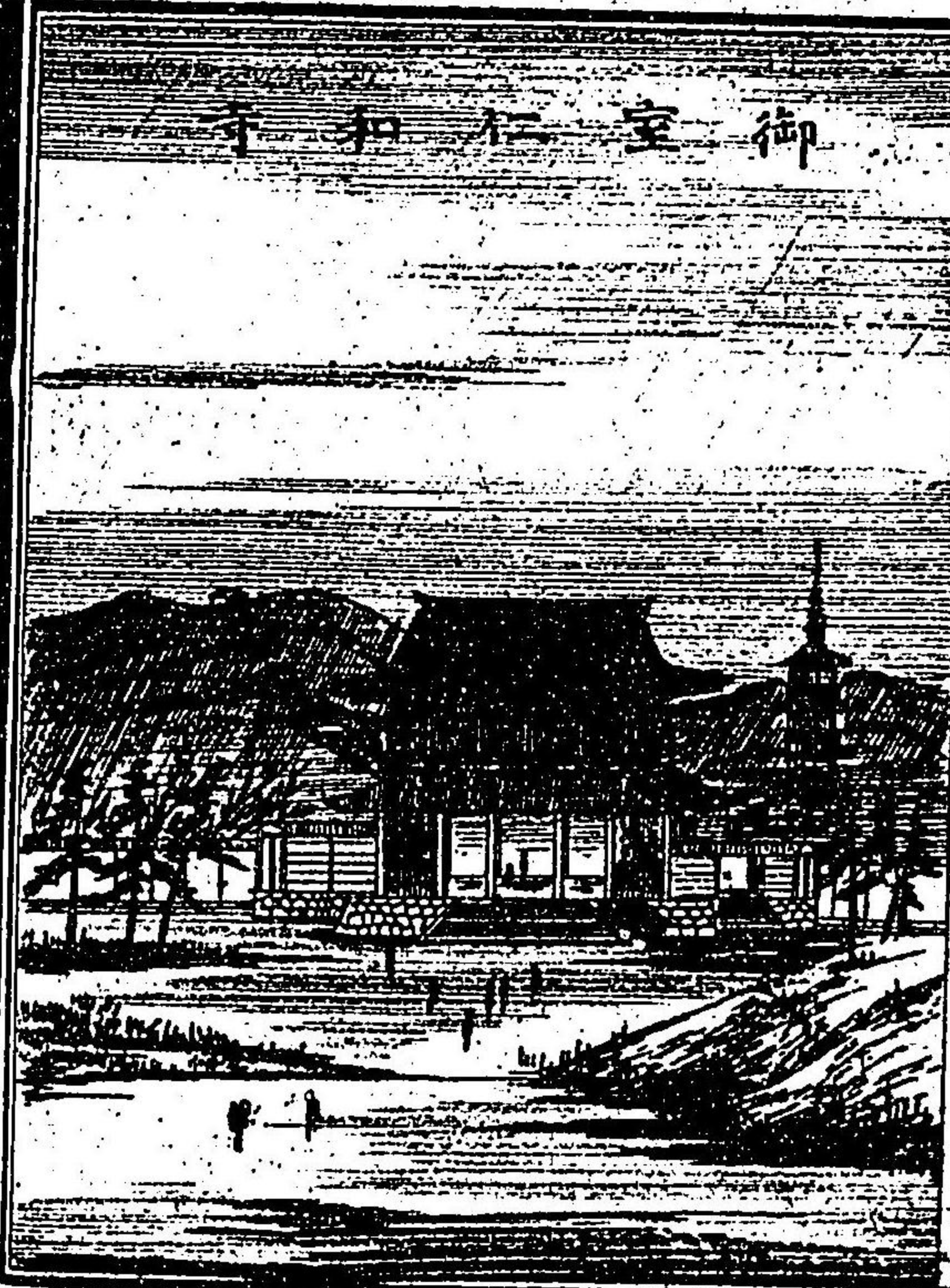
○御室仁和寺 妙心寺の西北八町許あり真言宗光孝天皇の御願より仁和年中草創

金堂本尊阿彌陀仏脇土ハ觀音勢至なり祖師堂ハ寛平法皇宸影弘法大師の像を安す五重

塔ハ九所権現十二権現經藏閣伽井下乘の立石ハ藤木甲斐守筆なり此地を御室と稱さる

ハ宇多天皇勅して寛平元年此地小七堂伽藍并小御室ヲ建嘗たり延喜帝小御讓位以後此

御室仁和寺



此御室小移り七五ふを寛平法皇と稱し奉り

了とす其後代々法親王御法務ありしが

推新の後宮ハ皇族に還り七五ふ境内櫻樹多

其花地上尺小満さよよと咲乱と比類あり

美観なり尤佳境あり

○雙岡 御室の南小あり岳をいふ兼好法師徒

然草ハ櫻され旧地なり

○法金剛院 双の岡ハ麓小あり清原真人夏野

の別荘なり其子滝雄と双岡ハ上山莊をい

となみ後寺やなし雙岡寺と号し己に荒廢

に及ぬ大治年中侍賢門院再興らて号を法

金剛院と改む宗旨ハ四宗兼学中興開基ハ因

覚上人也本尊ハ阿彌陀丈六の像春日作なり

○妙光寺 鳴滝村小あり御室より八町計西初

ハ内大臣師繼の子忠年追福の為山莊を寺と

る一妙善寺と号し開基法燈國師本尊釈迦仏

を安し宝陀閣の額木庵ハ筆紫金臺ハ旧地ハ

後山小遺る金堂ハ内四方惣印金を押して莊觀

あり

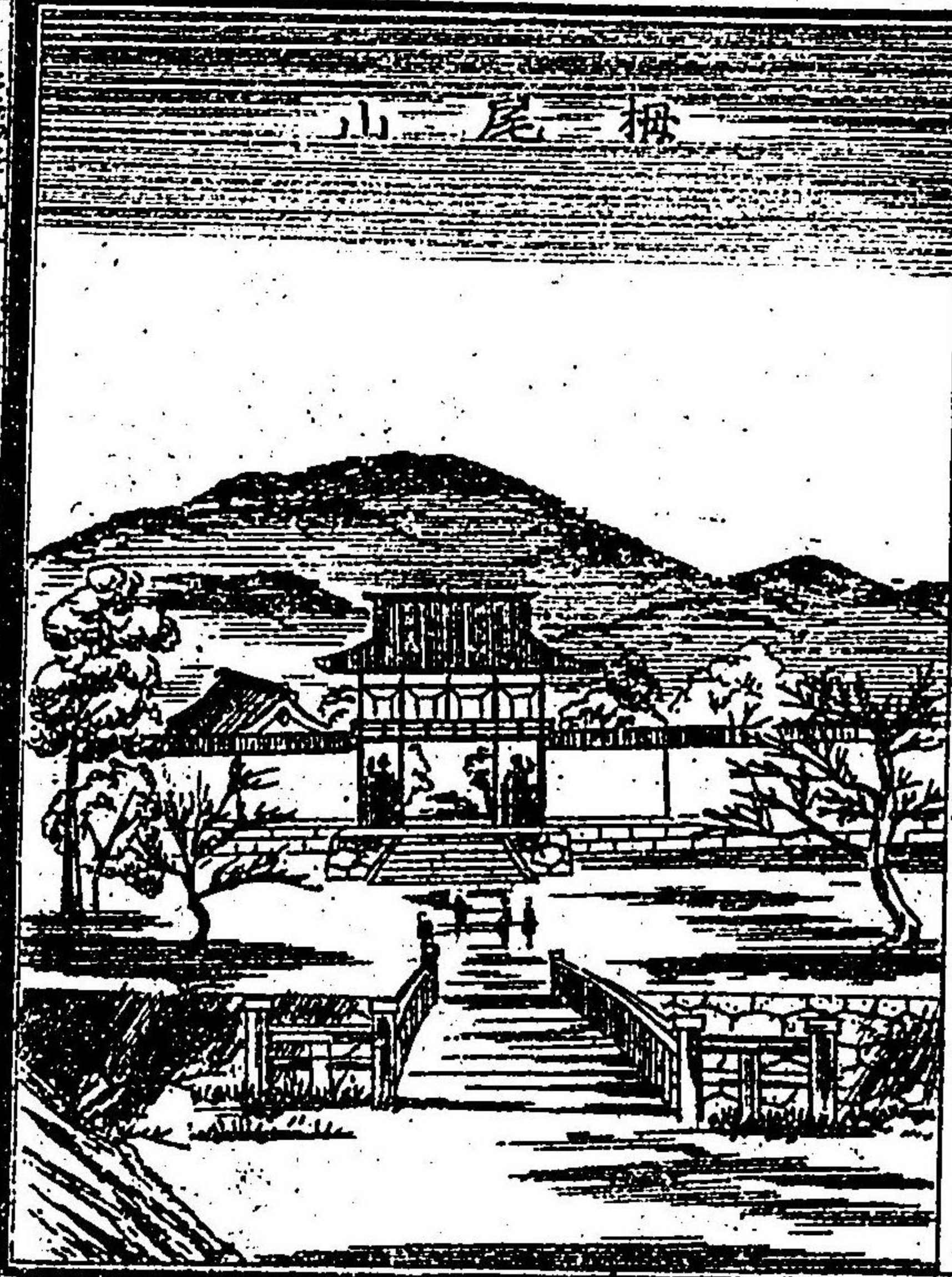
○泉谷法藏寺 同村小あり黄檗派小して百拙

和尚の開基なり

○五臺山 同村小なり般若寺と云開基觀賢僧
正本願大江國洲真言宗古義本尊父珠菩薩阿
弥陀堂ハ阿弥陀觀音勢至の三尊觀賢の坐禪
石ハ北江方小なり

鳴滝村野村云の西小川あり橋を涉り西小
至きバ上崖我小至る又橋を涉りびして川
小沼ハ北江往者ハ高尾梅尾小至る
○平岡八幡社 鳴滝村より二十五町計北往來
の東側小なり弘法大師勸請なり

梅尾山



○梅尾山 平岡八幡より二十町計北西華嚴宗

高山寺と号す本尊釈迦仏醍醐天皇の御宇比
叡山法姓坊尊意僧正の開基小して元ハ天台
宗なり中興明惠上人よと今の宗小更しむ上
人茶の実以得て裁とめられしとて後宇治
信樂等小移し今世の如く感んかありしと
と境内楓樹の名所なり秋季小ハ京都よと縱
覽人此小來る者多し

○梅尾山平等院 梅尾の西小ついに真言律宗
也開基智泉法師本尊釈迦仏明惠上人の作千
手觀音ハ聖徳大師の作又西明寺と号す此寺
内小ハ楓樹多し

○高尾山 梅尾西小ついに四町計小なり三條
大橋より三里余称徳天皇ハ御宇和氣清磨造
嘗す其後桓武天皇延暦年中弘法大師小賜ハ
り初神願寺と云ハ神護寺と更しめ真言宗
とめし勅して金剛寺の額を空海小書しむ金
堂の本尊薬師如来講堂の五大尊と云弘法
大師の作樓門の額ハ仁和寺覺信法親王の筆
鐘樓ハ金堂の良小なり鐘の銘ハ菅原是善序



の詞ハ橘廣相筆者藤原敏行是を世ハ三絶と
号す本朝の名器ハ一て並ぶ者ナシ護玉の神
社ハ和氣清磨を祀る所ナリ此所ハ楓の名所
ナリ一と興の地藏院より下なる溪を遙見下
すハ其佳景言ハん方ナシ

○月輪寺 高麗の西愛宕の山腹ハハハ鎌倉山と
号す本尊十一面觀音祖師堂ハ空也上人觀
上人月輪殿下の像を安坐開基慶俊法師中興
九條閑白兼實堂前ハ時雨櫻ハハハ常ハ枝より
霧雨を下す其地廻リ何モモ湿る

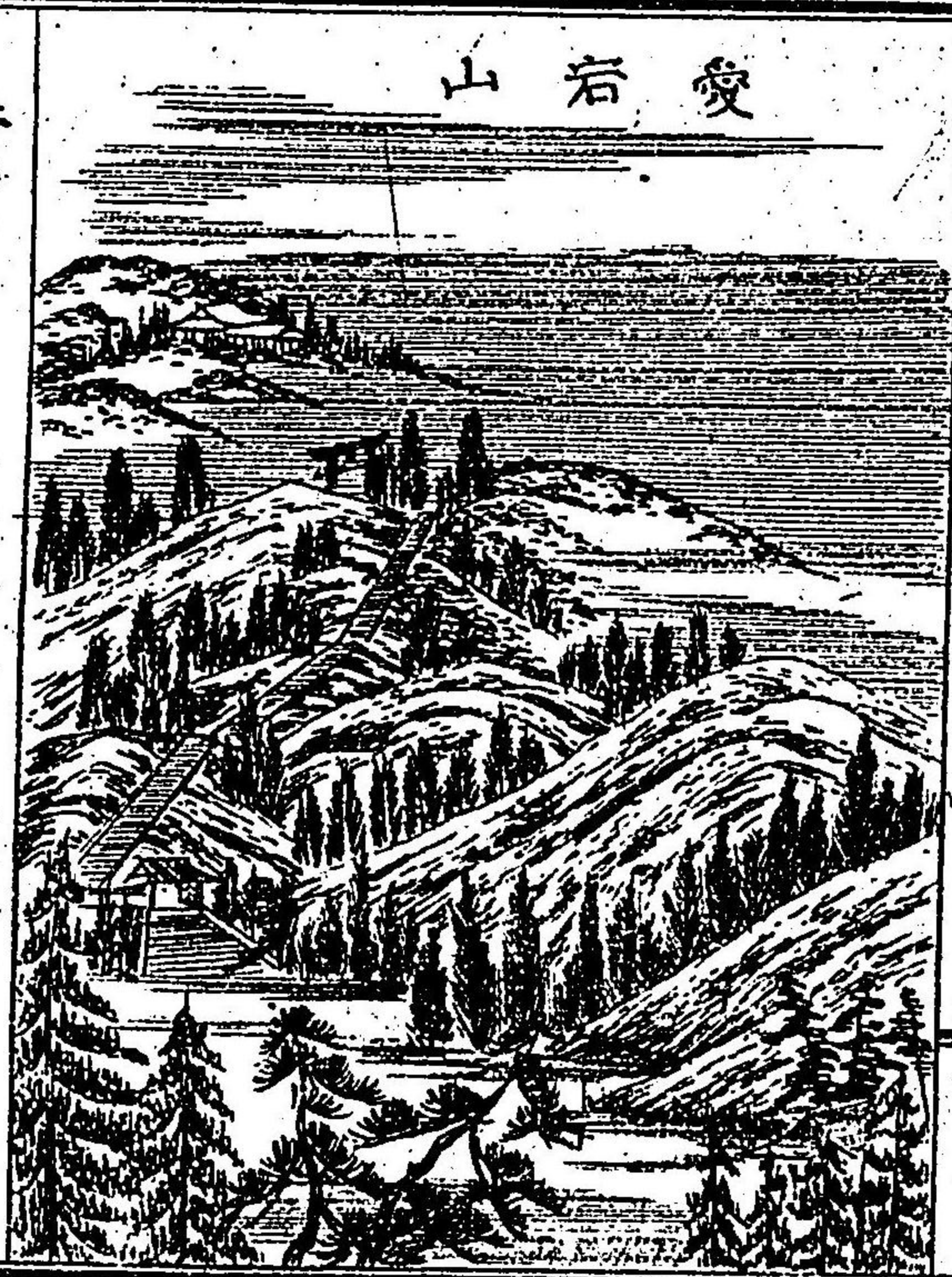
是より西へ上りて愛宕山鐵鳥居傍へ出る

二十町余

○愛宕山 上嵯峨より一の鳥居ハ至るハ水道
ニハ京ト三里二十八町ハ西北ハ方ハ嵯
峨釈迦堂より十町往來一ハ鳥居ハ是ト
ヲ試ハ坂ト云フハ夫より下りテ清滝川橋
の門前ト流ト距ハ登リ坂四十余町の高山ハ
清滝ハ茶店旅籠屋ハ又山上ハ至る道
一町二町毎ハ茶店を設ク半腹ハ一丹波國
龜田及ビ其近在村里を眼下ハ望ム山上銅鳥
居の内ハ坊舎六軒兩側ハ列ク本社祭神軻遇
突智神伊弉册尊又雷神破死神を合祀ス當社
ハ元阿太子山推現ハ一木地を將軍地藏を
無跡ト一帝都火災ハ守護ハ神ト一鷹ヶ峯の
辺ハ一光仁天皇の元應元年慶俊法師
此山を關ハ勸請ハ朝日山白雲寺ヲ稱ス
明治維新ハ後山号寺号を察ハ根元ハ更ハ愛
宕神社ト

○水の尾 愛宕山ハ下一の鳥居ハ左丹波街
道五十町ハ清和天皇の陵四所推現等ハ

愛宕山



社あり

○妓王寺

一の鳥居と釈迦堂の間西側小あり
浄土宗往生院と号す本尊阿弥陀仏脇に八
音勢至也清盛入道祇王祇女母刀自仙の五塔
あり此三義女は事ハ平家物語小詳なり

○三寶寺

妓王寺は南小隣に浄土宗往生院と
号す関基良鎮上人哥石門の前小あり重盛の
侍士滝口時頼出家して此寺小隠遁す侍女横
笛契情深く跡慕來る時頼の逢さるを恨み石
小一首を残り千鳥淵小身を沈めて歿すと云

○釈迦堂

上嵯峨村小あり京より二里十町五
葦山清涼寺と号し本尊釈迦仏立像五尺二分
天竺毘首羯磨天に作釈迦在世の時赤梅檀に
香木を以て作る処なり脇士ハ十六弟子の立
像東西小ハ文珠普賢に安ま故小三國無双の
吳仙す一條天皇永延元年南都東大寺に僧
大周然入渡り時此像を得て醍醐一伽藍を建
立して安置す阿弥陀堂五大堂二重塔三石塔
四ツ脚門等あり例年三月大念佛あり
此門前小狹窄屋寄賃宿多くとあり是より東

嵯峨釈迦堂



小至也。廣澤より鳴滝御室小出る水道なり。又釈迦堂の門前と直南小往き、天竜寺、嵐山松の尾へ出る水道あり。

○大澤池 清凉寺の良小川なり。又菊ヶ島と云い、池の中島なり。名所古歌あり。

○大覺寺 同所小川より真言宗佛殿本尊五大尊、弘法大師の作。閑基淳和帝の皇子恒寂法師元、嵯峨天皇の皇居あり。と精舎とあり也。

三代實録小見へり。此北小蒲生谷と云り。小松中將惟盛の室子六代は悉住し。此也。八角堂は後宇多帝は陵なり。

○廣澤池 大澤の異小名。寛朝僧正此池を造る所也。東西南北とも凡亘り三町計り。月日名所也。古哥多し。是より鳴滝へ距り小丘に帶り。池足形池なり。鳴滝へ東十二町計り。

○小倉山二尊院 釈迦堂の西南小川より天台真言律浄土四宗兼學本尊阿弥陀釈迦二像を安置。故小二尊院の号なり。念佛堂あり。法然上人足曳其景像を安す。中門は額に後柏原天皇の宸筆なり。本堂の額に後奈良天皇宸筆二尊



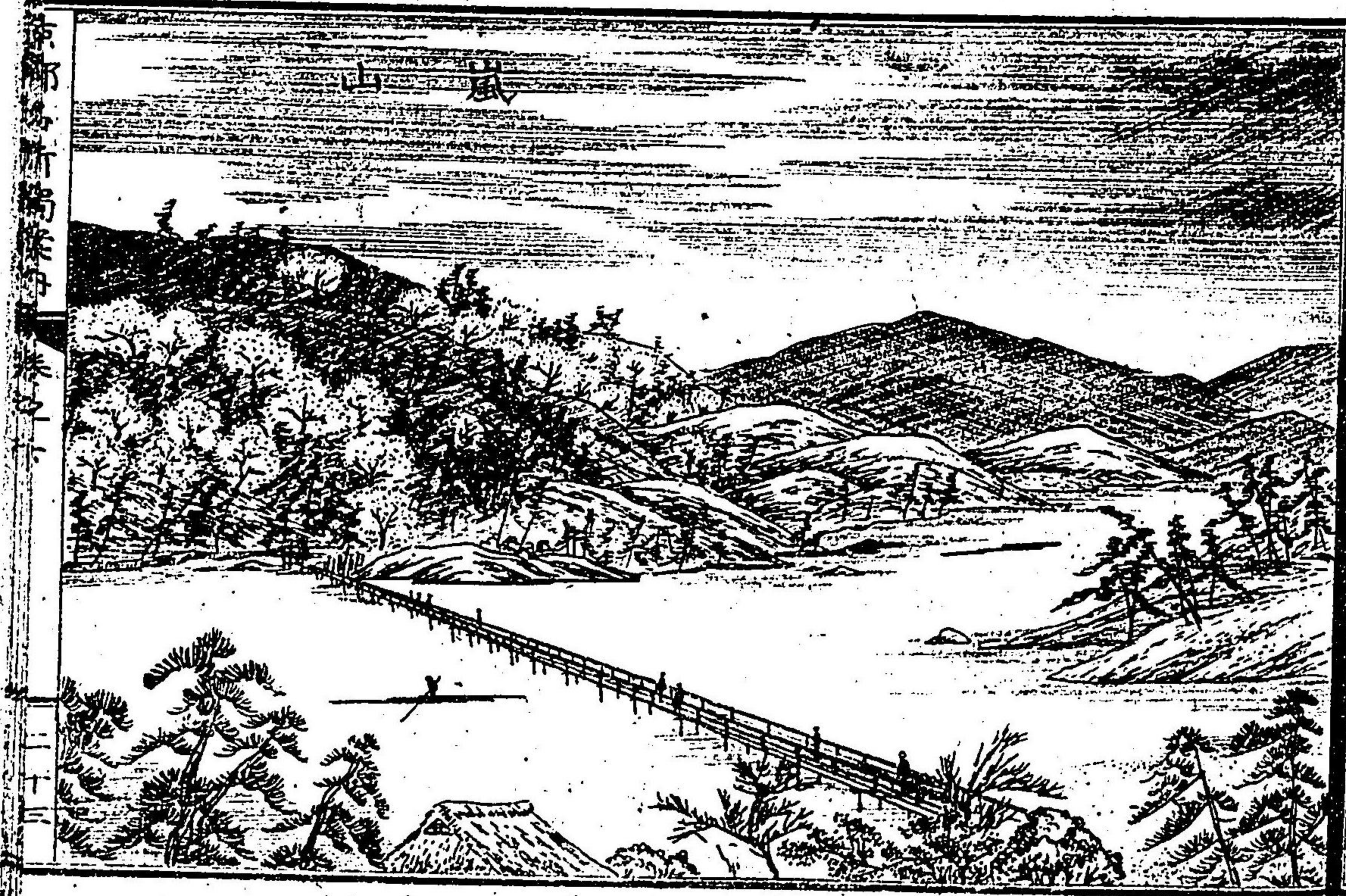
教院とあり。當時ハ嵯峨天皇の創建始ハ華臺寺と云其後醍醐帝ハ皇子兼明親王此辺小山莊を設け雄藏殿と稱し中興法然上人居住を定家ハ山莊旧地ハ佛殿の後山腹小川より小倉山ハ楓樹の名所なり。て世人は知る也。

○野宮 小倉山の南敷中小川より倭記王基其兩宮あり。神明を祭る黒木の鳥居小芝墻ハ往古の遺風なり。と伊勢ハ齊宮小立せり。内親王此所小拔潔し。玉ふ其旧跡なり。

○化野 小倉山北ハ麓小あり。念仏寺と号す。本

尊阿弥陀山湛慶は作福田寺の南朝は帝後龜
 山院は陵の詩息院本尊俱王神の小野篁作
 熾大王像弘法大師作地藏尊の満米上人作
 ○天龍寺 釈迦堂より直南八町計大井川渡月
 橋の北詰より靈龜山天竜資聖禪寺と云開
 山夢想國師曆應三年後醍醐天皇追福の為
 足利尊氏は建立したる所禪宗五山の第一也
 殿本尊ハ釈迦仙脇士文珠普賢と安土檀上ハ
 天照皇大神ハ銘あり梵天帝釈達摩臨濟百大
 の像左右小安土昭堂ハ聯芳と号を閑山像尊
 氏像地藏像と安土元治元年七月二十日兵火
 此為小殿舎多く焼失也

○大堰川 水上ハ北丹波より流き水尾川清瀧
 川ハ落合ハ猿飛龍門滝大瀬等ハ名あり下嵐
 山ハ帯ハ渡月橋を経て桂ヶ里の東を流き桂
 川と稱し末ハ淀川に入る丹波より常棣川
 ○渡月橋 下嵯峨嵐山ハ東麓大堰川ハ流き
 架も所京都より二里五町橋ハ北詰西小三軒
 茶屋あり嵐山ハ風景小對し遊客ハ來泊常ハ
 絶へず



京都府志 卷之十一 嵐山

○嵐山 渡月橋の川上南岸より亀山天皇和
 列吉野より櫻樹を多々取上せ此山より移し植
 せ玉ひ行宮より敷寛のりより今も櫻花
 名所とある戸無瀬滝千鳥洲又山上小大悲閣
 あり山麓川添温泉湯を設く春ハ櫻花爛漫
 杜鵑花小嵐峽の名に遊暑小舟を泛へ
 螢花は光小燈を点らす紅葉賞して夕小至
 るを忘き雪は且ハ車力を競ふ四時ハ遊観雅
 俗之を集す山水ハ勝景最第一なり

○法輪寺 渡月橋ハ南詰二町計小なり智福山
 と号す真言宗本尊虚空藏菩薩坐像道昌法師
 作天平年中建立初葛井寺と云中央関基道昌
 僧都也此寺を元治ハ乱小天竜寺と共小堂宇
 焼失して再殿堂を設く例年四月十三日都鄙
 近隣ハ兒童十三参りと稱し参詣夥し

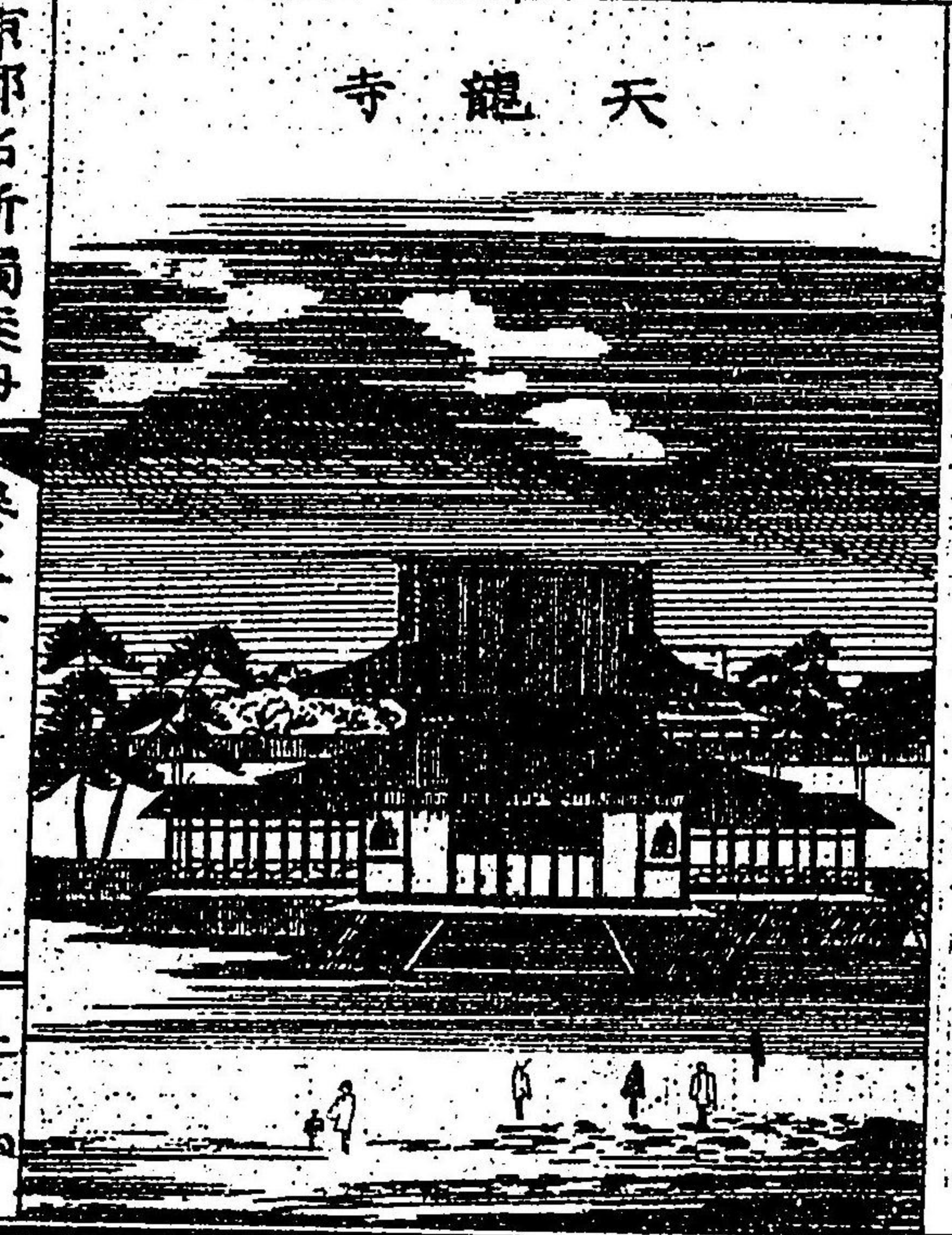
此門前を下り川ハ西岸小浴ハ南八町小至
 リ松尾神社小達す

○小督塚 三軒屋ハ南小隣る藪中小なり小督
 局ハ櫻町中納言成範女禁中第一ハ美人也高
 倉院ハ愛妃也平清盛を恐きて嵯峨野小隠

北住一こと盛衰記小見へあり
 ○臨川寺 渡月橋ハ東小なり禪家十刹の第二
 小聖龜山と稱し三會院本尊弥勒仏坐像也
 仏殿の額足利義満筆此地旧龜山法皇の仙居
 小建武二年後醍醐天皇開山夢想國師小
 賜小所也

○鹿王院 臨川寺の東小なり禪宗十刹也仏殿
 本尊釈迦仏脇士十六羅漢を安し蓮慶の作開
 基普明國師像尊氏像檀上小安し本願足利義
 満也至徳元年建立

天龍寺



○車折社 下嵯峨材木町にあり清原真人類聚の靈廟と云兩人賣買の價違約なきや此社の祈りて驗ありと云

○有栖川 材木町東にあり北よる流北大川小入名所古歌の詠あり

○帷子辻 材木町の東あり檀林皇后の骸骨嵯峨野に捨しと帷子の落散し所と云此所ハ上嵯峨下嵯峨太秦常盤廣沢愛宕等の別れ道あり

此所を良へ往けハ二條道又下三賣通に至



大 秦

又巽小往者ハ三條通下京鹿小至る朝小往者ハ上嵯峨愛宕道なり西ハ即ち下嵯峨嵐山天龍寺より至る道あり

○安堵橋 帷子辻の西あり

○乙子地藏 帷子辻北東常盤村小あり六地藏一なる所謂ハ御菩薩池所小詳なり

○常盤墓 乙子地藏の傍小あり牛若丸母常盤ハ此里に産なり

○太秦 帷子辻の東五町計小あり廣隆寺と云推古天皇十二年聖德太子其臣秦川勝小命ト

當寺に建立し則ち假宮を蜂岡小造り百濟國よる獻むる佛像を安置しこ是ハ蜂岡寺と云後小廣隆寺と改む廣隆ハ川勝の名なり本堂の築師如来ハ向日明神の作也太子堂ハ聖德太子三十三才自作影像代安に代りの天子ト

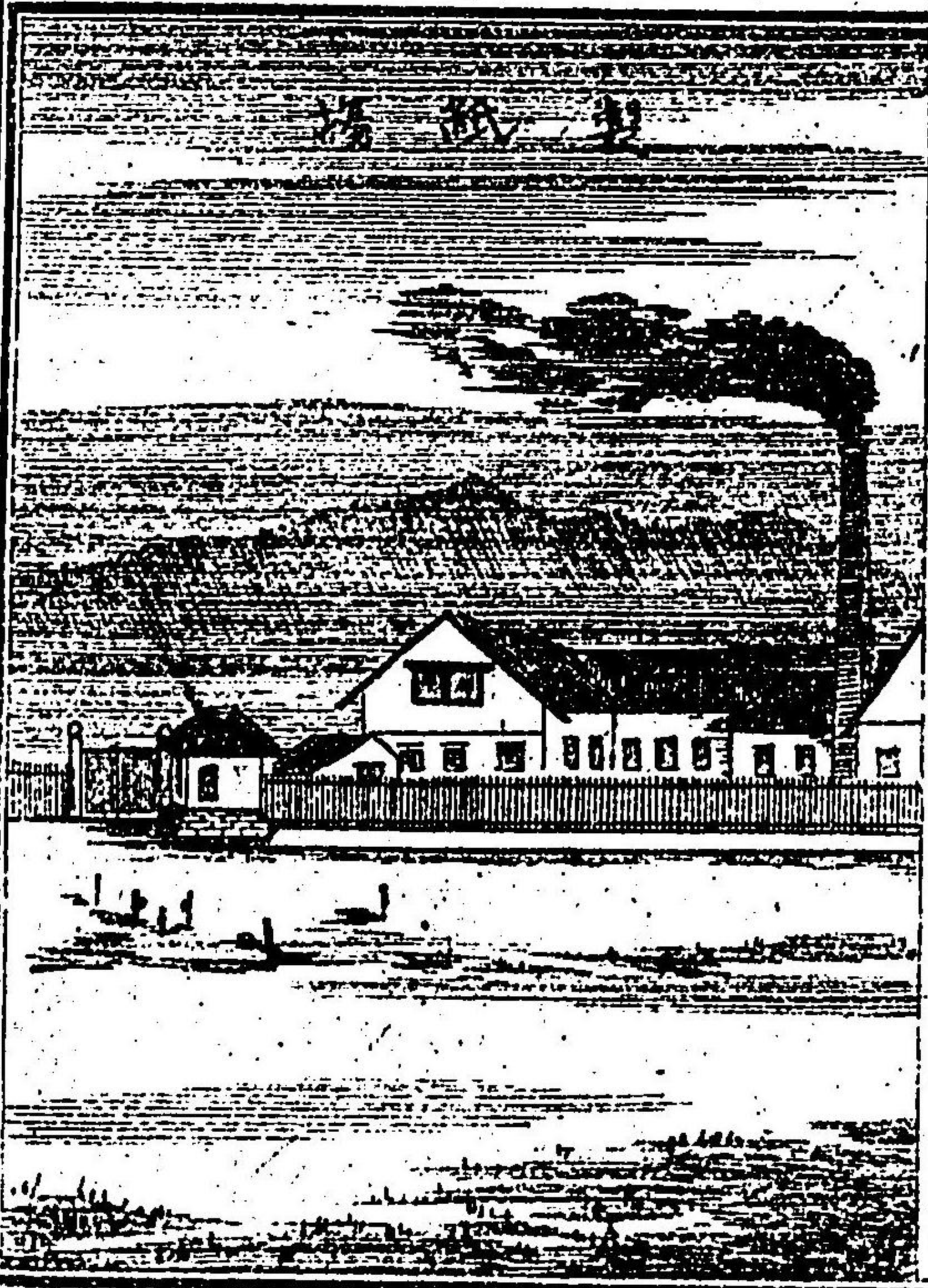
黄櫨染に袍下裳表袴石帶等を毎歳贈進し玉心地藏堂の尊像ハ道昌僧正作大酒明神祭

始皇祀る柱宮院推古天皇十二年太子自ら檀を築る如意輪觀音太子は作又阿弥陀仏ハ

隋煬帝より推古天皇へ送りし祖師堂ハ弘

法大師理源大師道昌僧正安例年九月十日
二日夜成其刺牛祭の神事境内東の方小
池あり杜若菖蒲蓮花生し又櫻樹楓多し
此此門前以直東小往多二条通小至る南東
小往多ハ三條通小至るなり

○水島社 太秦の東森の中小あり天照太魂神
を祭る瓊々折尊大己貴命左右小坐し承久乱
小官軍敗きて三浦胤義此森中小自害せし事
承久記小見へし又盤根社ハ本社北東より
マ糸綿以高ふ人此社以敬き西の傍に清泉あり



て世の人元札とし石鳥居八角の桂なり例
祭九月廿一日盤根神事ハ三月十一日ヲ神
典ハ西陣織職糸商人是を昇

○海生寺 太秦の南竹林の中小あり草菴小
て関山深山禪師以像を安す世人車僧と云

○梅宮 四條の西梅津里より京より一里三
十丁計祭神四坐り酒解神大若子小若子酒
解子神相殿橘清友檀林皇后嘉智子を安む往

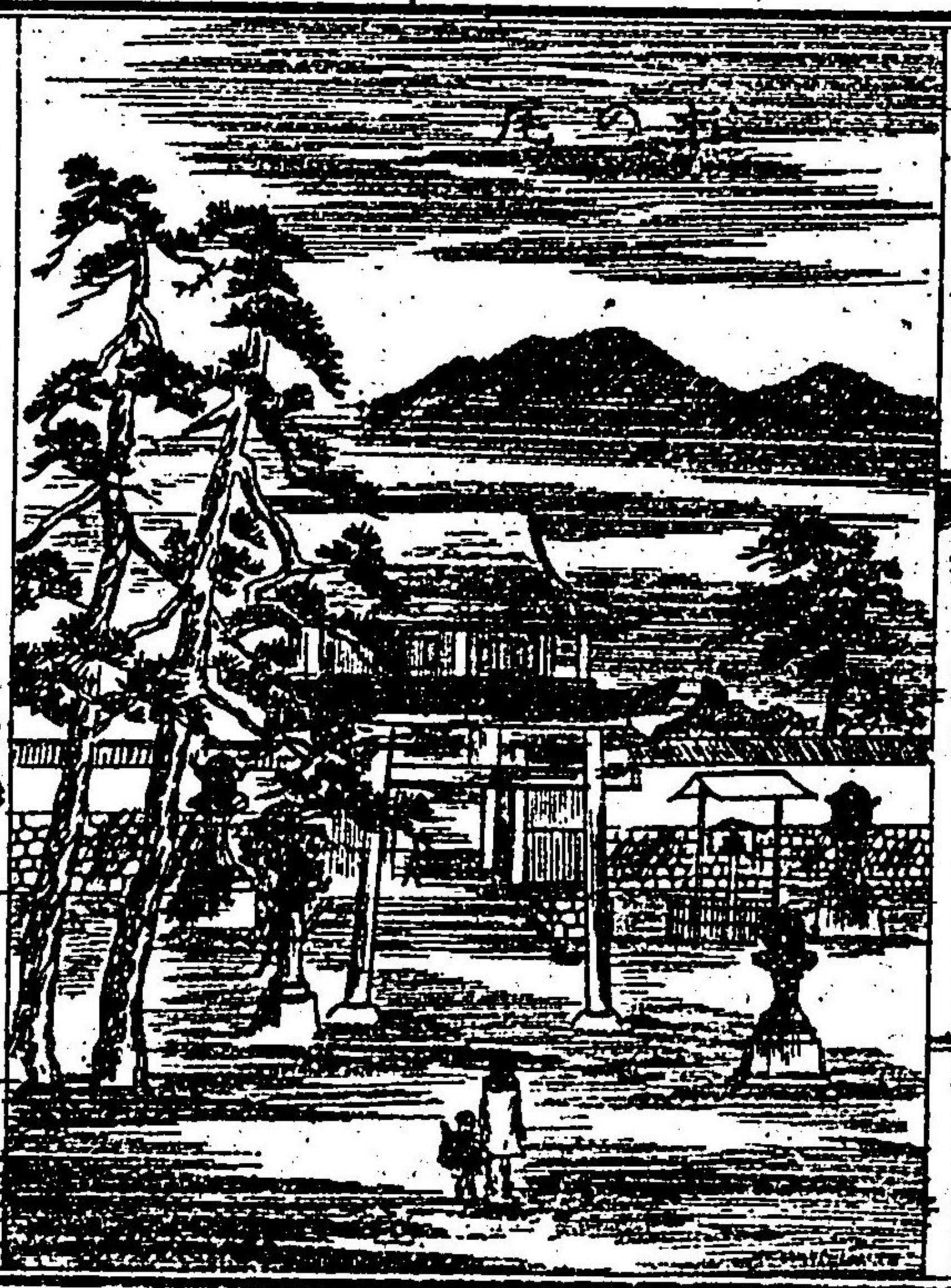
古嵯峨天皇其愛妃檀林皇后當社以砂を敷て
仁明天皇以産玉ひしより今小安産を祈願す
る者多し例祭四月上其申日

此社より東小戻きハ京都四條通西口入る

○製紙場 桂川は東岸小あり梅宮より五町計
西ハヒールフアブリクと号を明治九年一月

開業西洋の器械を備へ洋紙敷品を製し近時
マロツコ漆紙活字印刷紙等の製造をも為
と長より川を距へて松尾へ至る

○梅津渡 大井川の流きなり此辺少々梅津川
と云松の尾への渡し舟あり此下より桂川と



と云是より川下七町計上野橋あり

○松尾神社 梅津に對す川向ひ山田村小なり
 京より二里五町祭神大山昨神市村島姫神大
 宝元年祭都理分土山山田より近坐す當社に
 神を酒造の神と稱と松尾七社ハ月讀社櫻谷
 三の宮宗像社衣手社四大神本社なり例歲五
 月上旬日官祭四月二日官幣大社あり神輿七
 基西七條旅所より桂川を船にて祭礼あり
 ○月讀社 松尾の南二町小なり松尾七社の内
 あり文徳帝御宇仁壽三年天下痘瘡大小流行

す諸人は是を愁ふ此時堂社に神託ありて其害
 と免了是よをりて痘瘡の害を免せん為此社
 小なるを祈り事三代實録に見へり

○華嚴寺 月讀社の南谷村竹林に中小なり宗
 旨華嚴本尊大日如來左釈迦仏右開基鳳潭像
 を安んず門外額華嚴寺ハ黄樂隱元の筆左右の
 聯ハ鳳潭の筆

○西芳寺 松尾の南葉室より禪宗本尊阿彌
 陀ハ聖徳太子の作開基ハ聖武帝御宇天平年
 中行基中興夢窓國師之方丈の庭ハ夢窓の作
 了所也庭中の造化四時ハ風光玄妙なり此
 類ハ一仏殿を西來堂と云ふ本尊來迎ハ像也
 瑠璃殿釣寂殿書院を云ふ石精賣風石縮遠亭
 黃金地向上閣小門を云指東庵開山夢國師の
 塔湘南亭池の中ハ亭をり小士峯一覽潭北軒
 貯清影向石等ハ名所あり

○衣笠山地藏院 西芳寺の南小なり禪宗小
 天竜寺小屬を本尊地藏尊開山宗鏡禪師曰
 此地藏衣笠内府家良の山莊小なり後山を衣
 笠山といふ細川頼之當寺は建立して諸堂を

嚴重より應仁の兵火に罹りて亡廢今延慶庵の遺れ也

○淨住寺 葉室小あを葉室山と号す禪宗黄檗

派本尊如意輪觀音坐像七寸天竺仏にて鉄牛

和尚感得の尊像也曰開基眞聖上人也其先葉

室中納言定然寺を建て開居其地なり年經て

寺廢す元禄二年鉄牛再建す

○桂川 大井川の流きしを舟渡しを丹波

道なり

○桂里 川其西小あを上桂ハ梅津の北小なり

下桂ハ松の尾の南より神代月讀尊降誕の

地此ニ桂樹あり故小名とす

○廻地藏 下桂小あり華洛七道の一なり六地

藏其一

○御靈社 中桂より橋邊成を祀る

○桂の御茶屋 徳大寺村の東より林泉築山

風景の美麗なり清趣致筆小盡しありく旧桂

宮ハ御別荘なり今公園の一とす

○西山御坊 下桂の西河島村小あり西本願寺

の掛所にして久遠寺と号す阿弥陀堂本尊阿弥



桂川

陀仏ハ安阿弥の作開基覚如上人ケチクの面

木作其面なり早年里人されを祭り雨を祈れ

ハ忽ち其驗ありと云ふ當村小災ハ此バケチ

くと鳴て凶端を知らし故小名とすと云

○桂川鐵橋 七條通の南二町桂川小架は是京

都停車場より大坂停車場へ至る瀛車道路

なり蓋人明治九年九月建築落成し

○唐櫃越 葉室ハ淨住寺と地藏院と其間より

丹波國王子村へ出は間道あり峠小大木ハ松

敷林なり

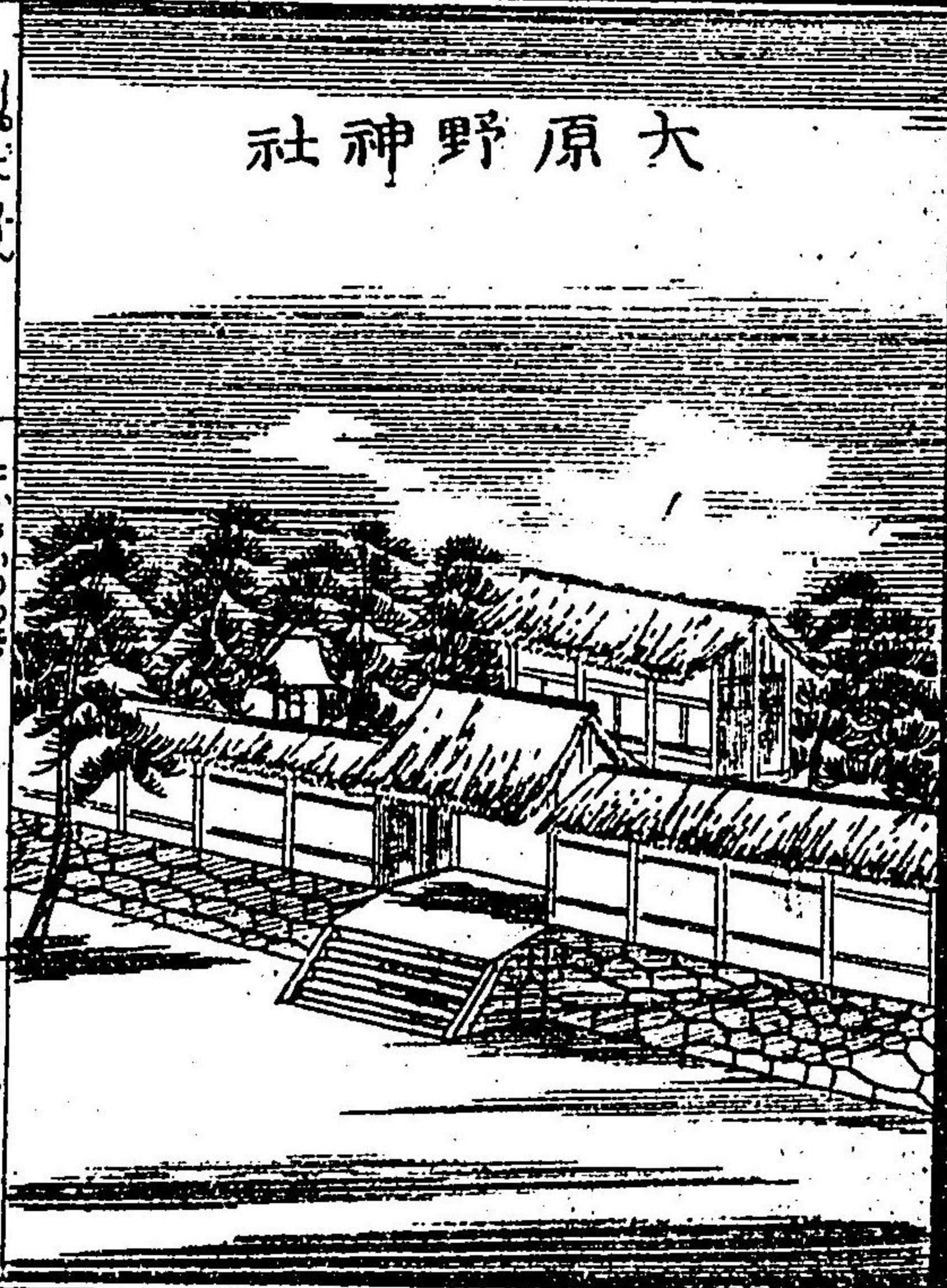
○老坂 又大枝坂と云檜原は西一里小なり此の西一町計小山城丹波は國堺なり此所民家多し峠は里とり丹波國は産物を運送して賣買ふ市場なり

○酒吞童子首塚 此所小なり源頼光大江山の鬼人を平らぎ首を此所へ梟しと云

○峠地藏 同所小なり大福寺と号し古市盛長者は娘難産し死に其追福小地藏堂を建立して産婦の難を免れんとす

此所より丹波國龜岡へ一里十二町なり京都より四里十八町又龜岡より能勢妙見宮へ四里廿八町又龜岡より福智山へ出ると山陰道の本街道とい

○檜原 老坂は東一里二十八町小なり七條通維新後村号と更め岡村と号し山陰道は駅通なりて民家繁榮なり此村の西小沓村なり○大原野神社 檜原の南大原野村小なり官幣中社春日神社祭神武甕槌神經津主神天兒屋命姫神寅祭二月八日創建ハ仁明天皇嘉祥三年左大臣冬嗣南都三笠山より勸請し平安城



大原野神社

守護神と定む鯉沢池社の南小なり龍神を祭花の寺 大野野春日社の西小なり京都より

三里十二町小塩山勝持寺と云天台宗本尊藥師傳教大師作開基役行者よりて自作の不動明王より本尊として大原寺と号し本堂の額ハ小野道風の筆旧ハ伽藍僧坊四十九院魏々として嚴重より年經て破壊したるは文徳天皇弘法大師の作西行法師像西行揚西行菴室ハ山上三町計小なり當境内小櫻花房

一盛の頃ハ都下の貴賤此小来リテ遊観す又
 役行者の窟深野沼辨財天社あり毘沙門天地
 藏菩薩傳教大師作本堂小安し鎮守白山社二
 王門金剛力士を安し運慶法慶の作元和年中
 木下若狹守勝俊此小閑居して天哉翁長嘯子
 と号し又細川幽齋長岡小閑居し此寺小於
 元龜二年運哥と興行いほまきを大原千句とて
 世小名高し

○西岩翁 乙訓郡灰方村は南長峯は木の西
 あり金藏寺と云天台宗本尊十一面觀音向日
 神作と云不動堂小五大尊は安し念仏堂小阿
 陀と安し境小三段小流まゝは滝あり開基ハ
 隆豊禪師也創建ハ桓武天皇平安城へ遷都の
 時王城の四方小石倉を造りて大乗經を収め
 玉ふけ一ヶ所なり

○栢社 灰方の南林の中にて祭神大歳神小
 して向日社地主神の母神なり
 ○三鈴寺 灰谷の上より京都より四里五丁
 西山と号し元兼宗本尊仙眼曼陀羅ハ觀性
 法橋筆日本無類曼羅なりと云ふ左右小釈迦

阿弥陀を安し惠心僧都の作堂前小智者大師
 善導大師善惠上人宇津宮蓮生法師等け像を
 安し拘止阿弥陀ハ慈覺大師け作也當寺開基
 源實上人之中興善惠上人也厩塔ハ三町計山
 下小なり世小西山上人と云淨土一泓ハ閑祖
 あり當山ハ高峯として絶頂を醫嶽と号し其
 形三鈴小似もり以て名とし此嶽より二大
 仙七城見也二大仙ハ京奈良也七城ハ京大
 坂淀郡山高概龜岡也

○善峯 乙訓郡小塩山は上小なり京都より四

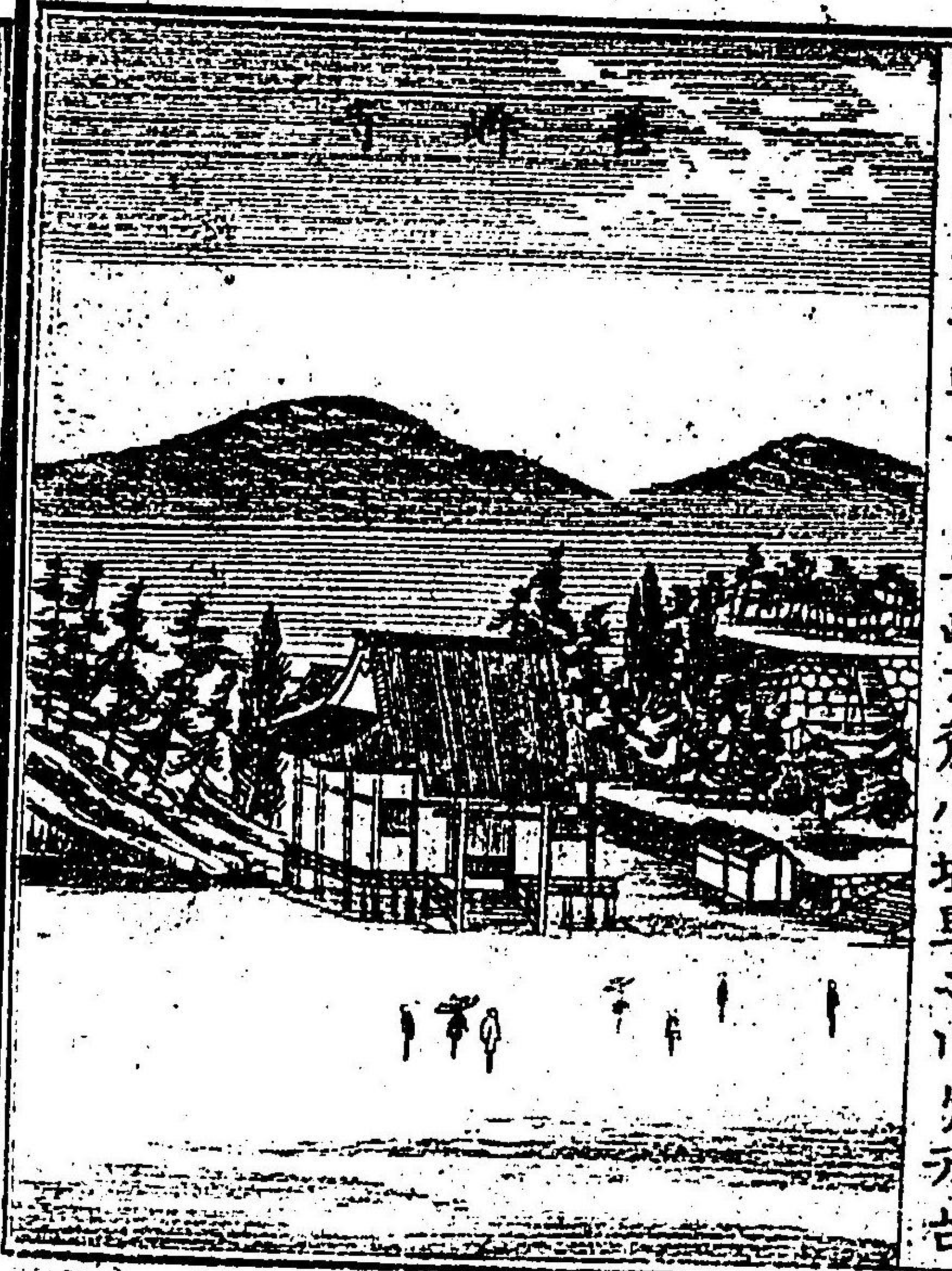
三 鈴 寺



乙訓郡小塩山は上小なり京都より四

里寺と西山善峰寺と号し天台宗開基源寂上人本尊千手観音は像木八加茂の神木槻木なり行山法師弘仁法師を招き千手は像を作らしむ是洛陽草堂に本尊也其余材を以て六尺の像を作る是當寺の本尊也阿弥陀堂の本堂は慈覚大師の作二重塔ハ大日如来を安置白山水仙翁石阿智坂社等なり又觀性法橋慈鎮和尚尊四法親王等は墳當山は北より又四龍は松ハ五葉小一奇木也

○小塩山十輪寺 善峰は麓小塩里より六古



宗小して善峰寺小属に本尊観音蒼山法皇西國順礼初小詣て五ふ故小禪衣観音と云腰帶地藏漆殿皇后安座の為作り五ふ在原業平塔塩竈古跡潮溜地等なり

○上久世藏王堂 乙訓郡上久世村小あり醫王山光福寺と号し四宗兼学本尊藏王権現役行者作二王門金剛力士ハ聖徳太子の作創建ハ村上天皇天曆年中淨藏貴所の開基也

○鷲尾寺 中久世の西大敷小あり本尊薬師仙鷲小乘もほ像也往古ハ嚴重しほ伽藍あり中頃回祿小乘を堂と多ほ今曹洞宗なり

○福田寺 下久世小あり上久世より十町計南西の方本尊地藏菩薩ハ行基の他なり摩耶婦人の像ハ安産の為梁武帝自ら作所ハ赤梅檀以像なり弘法大師帰朝の時を得て撰列摩耶山小安し後此小移し龍神の像ハ俊恵法師兩乞の法を修し板井清水ハ名所なり此寺の良小あり

○向日明神 下久世の西南小あり京より二里二十町向日町驛の西側祭神一坐鷲鷄羽菅不

向日明神



合尊此所の産土神とて例祭四月中辰日地主の神ハ本尊の南小なり白日向明神と称す素盞鳥命の孫大歳神御子なり貞觀元年正月從五位と授る此社の額ハ小野道風の筆又石座神降臨ハ鳥居ハ半小なり世小此所を成合塚と云ふハ非ありと

○向日山 向日明神の山と云ふ又鳥見山氏云豊臣秀吉朝鮮征伐出陣の時此社小詣し時社人勝山といふより又名とし
○真經寺 向日町の東小なり日蓮宗少くは日

像上人住し所也

○願徳寺 向日町北東寺戸村小なり法菩提院と号し天台宗本尊正觀音開基慈覺大師山門

此別院あり

○乙訓社 井内村小なり春日四所ハ明神を祭る此里の産土神とて例祭四月辰の日
○乙訓寺 西岡今里小なり大悲山と稱す推古天皇ハ御願小して聖徳大師開基ハ弘仁二年

弘法大師別當小補し大師ハ像ハ彫刻し八幡官化現ハ神像を刻む故小神佛合體ハ御影と云本尊是也例年三月廿一日開帳又寛平法皇行宮とて五ゆふより法皇寺氏云往古ハ万境廣大少くは伽藍嚴重なり中頃南禪寺ハ伯英和尚住職とて真言とし
○明星野 今里北東にあり推古天皇離宮北地

○羽束師森 久世より一里計南にして久我吸の東にあり祭神天津兒屋命

○粟生光明寺 乙訓郡粟生村少なり浄土宗報國山と号し西山派一本寺也本尊四光大師ハ



栗生光明寺

像ハ大師四國の地へ配流し時其母より贈る
 消息を以て張り遣り自作なりと云阿弥陀
 本尊ハ恵心僧都の作也近江國堅田浮御
 堂千鉢仙の中尊なり是ハ熊谷二郎直実入道
 遺坊諸國を廻り後ニ當山に収む
 所なり當寺ハ堂宇ハ鉢格殊小善きを以て其
 精工を賞し工匠之を摸範む者多し法然上
 人ハ庭蓮生坊ハ塔ハ本堂の後の山上にあり
 ○木上山興海印寺 栗生の南十町余にあり
 照院と稱す真言宗ハ殿本尊千手觀音を安じ



抑谷觀音

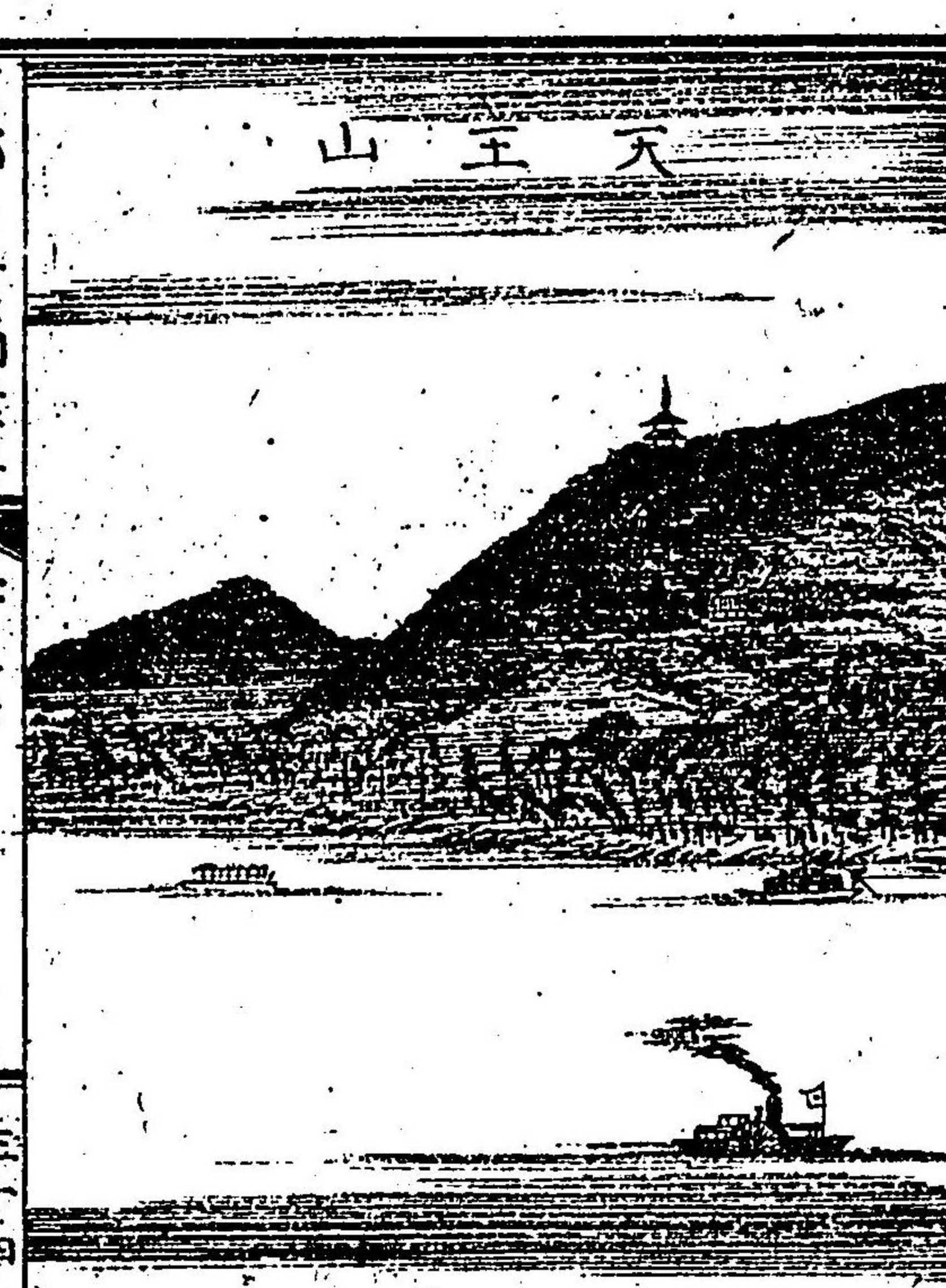
弘法大師の作ニ王門ハ金剛力士ハ運慶の作
 開山道雄僧都宗旨ハ真言也妙見社ハ西の山
 林ニあり此里ハ産土神也
 ○抑谷觀音堂 興海印寺村北西十八丁計山上
 小ハ立願山揚谷寺也号ハ本尊千手觀音ハ
 將地藏毘沙門天を脇士と云白河院御宇
 水觀上人開居の地揚柳ハ瀧本堂の下壇少
 更又獨鉢水あり眼ハ惱者常ニ參籠し其験
 を蒙る云京より四里半
 ○長岡天神社 乙訓郡開田村ハ京より三

里七丁祭神菅原道真少一々天満宮あり神殿
 の額ハ靈元天皇震軍なり菅公太宰府左遷此
 時祐房と云者餘波の惜みしゆ菅公自ら尊
 容を寫し与へ玉ふ所なり境内梅櫻杜鵑楓樹
 寺影一々池辺の風色勝とて遊觀の勝地あり
 ○圓明寺 神足町々山崎に間圓明寺村あり
 京より三里六八町本尊薬師仏聖徳太子作古
 堂塔魏々々々九條殿下光明峯寺道家創建
 あり子息圓明寺攝政實經此地小山莊に構へ
 閑居の地あり終に此所を薨す



長岡天満宮

○歸海印寺 圓明寺の東下植野村あり真言
 宗本尊千手觀音脇士ハ不動明王弘法大師ハ
 作地藏尊ハ傳教大師作平判官康頼丹波少將
 成經歸洛後造営あり也
 ○宝寺 乙訓郡大山崎あり京より四里十二
 町真言宗補陀洛山寶積寺と云本尊十一面觀
 音行基大士聖武帝の兩作也堂内の賓頭留ハ
 行基の作庭上ハ聖武帝に御塔有三重塔大日
 如来を安と又竹實ハ打出小槌あり元治元
 年七月長列瀧益田左五門介此小陣ナ京師の



天玉山

軍敗れて二十日真木和泉及び十七人の勇
士此小唄り塔前於て割腹す其跡に碑石十
七基を建例年十月十五日祭祀行はる

○天王山社 同所小唄り素戔嗚御子八王子の
鎮座す鳥居額ハ小野道風筆觀請の年月詳々
なり神殿梁の銘小養老二年再興と書け大
山崎郷中の産土神なり

○離宮八幡神社 同所の南往還の西側小在祭
神應神天皇神功皇后姫神貞觀元年勸請額ハ
行成筆社檀下ハ石清水涌出る又離宮の称
ハ嗟哉天皇御狩の時夜泊一玉ふ故あす元治
の乱小市屋及び當社悉く焼失して今ハ仮殿
なり

石小唄り所ハ京都近隣名譽の社寺及び壯觀の
地を著ハレのゆゑ此余社寺舊跡に於てハ不遺枚
舉

三府名所獨案内卷之三京都之部終

○開益堂和川製本目錄

古今勤王傳 石津發三郎編輯 全四冊

本書ハ歴朝史傳敷スル所ニ就キ其忠義即烈最モ世ニ炳蔚スル
名家三十有餘人ノ王事ニ勤勞セシ始終ノ事蹟ヲ抄述セシ書ニ
テ其意ハ親切其文ハ簡明且本文ニ於テ解シカタク人名地名典
故等ハ巻尾毎ニ註解ヲ施シタレバ童蒙ト雖モ解シ得ベキ書ナ
リ伏テ冀シバ江湖諸彦本書ヲ購求シ
テ勤王家ノ事蹟如何ヲ知リシユヘ

頭書 日本政字類便蒙 江坂暹近編輯 中全三冊

此書ハ政記中解シカタク字ヲ摘抄シテ注解ヲ加ヘ記事簡ニス
ギテ事跡ノ詳ナラサルハ正史ニ拠リテ之ヲ補ヒ論文故事ヲ用
ル者ハ必其典故ヲ舉ケ上欄ニハ地名姓名官職等ノ六部ヲ分テ
地名ハ其國郡ヲ註シ姓名ハ其世系爵位ヲ注シ官職ハ養老令職
原抄ニ拠リ其相當位階及ヒ職掌ヲ註シ務テ童蒙ヲシテ解シ易
カラシム政記ヲ読ムノ指拂此書ニスギタルハナシ四方ノ君子
陸續購求アラ
シヨクシテ

新撰明治玉篇大全

嘗テ世ニ行ハルノ字書頗ル多シト雖凡皆字數三四万ニ過キズ
而シテ音韻訓譯ノ精密ナルハナシ獨リ此書纂輯スル所ノ字數
凡六万余古文楷文等ノ文字一モ漏スナク逐一之ヲ訂シ音韻ヲ
詳ニシ訓訳ヲ密ニシ且訓訳解シカタクモノハ和訓ノ傍ニ持ニ
註解熟字等ヲ加ヘ訛謬ナキヲ期シタル一大字典ナリ是ヲ以テ
発売以來長書ト呼バレ世ニ流布スル既ニ數万部ニ及ベリ幣肆

ノ僥倖深ク感謝スル所ナリ仰冀カ
フ志学ノ士競争先購闕アラントヲ

四聲
解環詩文必携

馬場文英纂輯

小全四冊

此書ハ初学詩作文綴ナス人ノ便リナラシメノ要ナシ虚字ヲ
減ナシ兼ノ懐中ノ小本ニ製シテ譯リ易キヲ主トシイロハ分ケ
ニシテ一字毎ニ盡シ韻字ヲ附シ四声ヲ正シ文例ヲ舉ケ字義明
瞭ニ注解シ熟字ヲ加ヘシレバ此一部ヲ枕下ニ置カバ多書ヲ兼
用シ詩作文綴ナスニ自在ナリ世ニ詩文作習ノ書類數多アレバ
未タ此書ニ勝レルヲ聞ス其シハ四方ノ諸彦是ヲ常ニテ其有益
ナルヲ索
シ玉ヘ

雲蕉画譜

池田雲蕉先生著

中全五冊

四君子 花卉 陳列 人物 橋梁 屋宇

同 山水 花鳥ノ部

全二冊近刻

輓近南畫ノ世ニ行ハル、ヤ到ル處トシテ玩賞セサル無シ是ヲ
以テ画譜ノ設ケ急ナラサルハ得ヌ故ニ墨蘭朱竹共ニ梓ニ上ル
然此或ハ高尚ニ失シ或ハ鄙近ニ流レ画学ノ指拂トナスヘキ者
少矣雲蕉先生此ニ慨アリ頃日此ノ画譜ヲ作り後進ヲ誘掖セラ
レントス今我が同志ノ徒先生ニ乞ヒ之ヲ世ニ公
ス毋來学画ノ諸君幸テ此書ヲ購ヒ玉ハンコヲ

珠笑初歩

吉田忠健著

全四冊 共合卷

此書ハ府下小学生徒ノ為ニ基數小數大數物數命位ヨリ容易
キ加減乗除及ヒ應用雜題數種ヲ掲ケタル簡便ニテ學ビ易キ

雅俗 日用作文大成

平木保景編輯

全三冊

書ナルヲ以テ發見ノ日ヨリ既ニ數万部ヲ販賣スルモ尚陸續
御購求有之突ニ感荷ニ耐ヘス尚依回愛顧ヲ垂レ五ノ下ヲ希
此書ハ雅俗兩用ノ熟語ト普通文ヲ採録シ編體ノ上下二段區分シ上段ハ四季
應節考ノ例文數章ヲ舉ゲ其章ノ内或ハ三四或ハ六七ニ句斷シ此ニ對シテ種
々ノ熟語ヲ集メ傍ニ訓ヲ附シ下ニ和語ヲ施ス下段ハ民間平常用テ所ノ往復面
有余章ノ作例ヲ舉ゲ又卷末ニ於テ啓頭結尾ノ辭ヨリ種々ノ雜句ヲ蒐輯シ此書ニ初
學尺牘ヲナスノ指拂トスル近景ノ良書ナリ江湖ノ
諸君購求アリテ其良書ナルヲ知リ玉ハンコヲ企望ス

挿 十八史略詳解

平木保景編輯

全四冊

此書ハ十八史略ヲ讀ム者ノ為ニ其解シ易キ注釋ヲ集メタルモノナリ系圖アリ地
圖アリ物品ノ形ヲ圖シ務メテ讀者ノ便利ヲ為ス本書ノ注釋世間ニ多シト雖
モ皆一字一句ヲ摘ミ出シテ之ヲ講明スルノミ未ク此ノ書ノ如ク本文ノ大意
註解シタルモノアラズトモ此ノ書ノ如ク右ニ置カバ十八史略ニ於テ解義ニ苦ム
所ナカル可シ未タ此書ニ勝レル註書ハ之レ
無シ四方ノ君子陸續購求アラシムコトヲ

贅頭刑法註釋

洋綴全三冊

此刑法註釋ハ初ニ刑罰ノ通理ヲ解キ逐條其註釋ヲ下シ次第ニ從ヒ順序ヲ立
テ註中ニ刑理ヲ大ニ説キ且ツ實際適用ノ便利ヲ設ケ時ニテ其例ヲ示ス猶
其ノ遺漏ヲ補フガ為メ註釋ノ上段ニ加ヘ專ニ意味ヲ貫通セシム其ノ初ニ注釋
シタル者ト雖モ後文再ニ之ヲ繁示重説シタルモノハ是其ノ遺憾ナカラシムンガ
為メ註者ノ殊ニ意ヲ用ヒタル所ナリ然レモ煩ハシキニ過クル者ハ之ヲ簡ニス
ルヲ以テ註者ノ解ニ苦ム所ナラハ前後ト上段トヲ參考比照セバ猶堅永春傷
ニ迎フカ知クナルベシ刑法註釋多ク且煩簡宜
シキニ過スル者此ノ書ヲ除キ幾多キカアラシ

頭書治罪法註釋

洋綴一冊

治罪法ハ刑法ヲ活用シ犯罪人ニ適當の懲罰ヲ受ケルル爲メノ法律ナリハ刑法
ヲ字フモノノ豫メ之ヲ講明セザル可カラズ然レド法律ニ從事スルモノニ非ストモ之ヲ
習読セザルニ於テハ法律上ノ權利義務ニ暗ク從テ爲スニ及ハサルノ徒勞ヲ勤メ
行フ可カラサル權外ニ入り幾許ノ過害不學ヲ醸生スルモ許ラズ故ニ此ノ註釈ニ
於テハ本文ノ意味ヲ説クニ務メテ之ヲ平易ニ略シ文字ヲ解シ得ルモノノ爲メニ
其ノ真意ト權義トヲ明知シ易カラシム猶其ノ上段ニ於テ餘意ヲ補ヒ法理ヲ説キ互
下軍以テ現行法律ヲ學ブノ便利ニ供スルヲ
一読シテ此ノ善ノ趣ミザルヲ知リ五ノ

贅頭治罪法書式註釋

洋綴一冊

治罪法ハ被告人ノ罪狀ヲ證明シ其ノ有無輕重ヲ査定スル法律ナリハ事實
頗ル多シ其ノ被害人關係人等ニ對シ發スル所ノ書狀規則亦從テ多カラサ
ルヲ得ズ此ノ書狀規則ヲ二書ニ集輯シ之ヲ治罪法書式ト云フ若シ此ノ書
狀或ハ書式ニ違背アルハ其ノ從前爲シタル手續無効ニ屬スルヲアリテ權利
上大差異ヲ生ズルナリト爲ス故ニ治罪法ヲ講明スル者ハ必ズ此ノ書式ヲ對照
シ令狀中收監狀ハ此ノ如ク召喚狀ハ云々又其ノ宣誓ト如何ナルヲ云フモノ
乎ヲ知ラザレバ治罪法ノ實施ヲ試ル能ハス今此ノ書式ニ註釋ヲ施スハ治罪
法ト相重リ蛇足ニ似タリト雖モ治罪法ヲ反覆翻閱スルノ勞ヲ省キ一統シテ
其ノ何狀ノ事件ニ必要ナル何ノ場合ニ於テハ此書狀ヲ用フルヲ掲著シスル
一頁書ナリ治罪法ヲ講習スル諸君ノ一覽ニ供セント欲スルヲ屬購求有シ

皇刑法治罪法字引

洋綴一冊

法律書ノ註解多シト雖大抵本文ノ大意ヲ講明スルニ止リ字義ヲ明ニ
シ以テ初學ヲ誘導スル便書ニアラズ此書ハ熟字ヲ集メ假名ヲ
施シ尤傍ニ於テ大意ヲ擧グ註釋ニ於テ本義ヲ解明ス法律ヲ學
ブ諸君之ヲ左右ニ置キ註解ノ書ト并セ書玉ハ附簡ヲ勞ヒズテ上達スヘキ書也

明治十六年二月廿六日出版々權御願
同年三月廿一日版權免許
同年五月刻成

京都府平民

三拾貳

編輯人 馬場文英

上京區第十一組松之本町

第六百五十二番地

京都府平民

出版人 細川清助

上京區第永組下本能寺前町

第五十三戶

三條通り小橋東入

發賣人 江南有美堂

